

平成 27 年度(2015 年度)
外洋合同委員会会議 (大阪)
資 料

公益財団法人日本セーリング連盟

外洋合同委員会 時間割

2月6日(土)午後 たかつガーデン

12:00～ 準備：ルール委員会・JSAF事務局

受付：ルール委員会・JSAF事務局

<開会関係> 進行：ルール委員会日下部氏

12:45～13:00

開会挨拶（ルール委員会）

本日の時間割説明

<議 事> 進行：川合紀行

13:00～13:45 レース委員会外洋小委員会

休憩（15分）

14:00～14:45 外洋計測委員会

休憩（15分）

15:00～16:00 外洋安全委員会

休憩（15分）

16:15～16:45 ルール委員会外洋規則小委員会

<閉会関係> 進行：ルール委員会日下部氏

16:45～17:00

明日のスケジュール・場所の説明

安全講習会 外洋安全委員会

ルール講習会 ルール委員会

閉会（進行役）

懇親会案内 外洋内海

会議資料掲載：

http://www.jsaf.or.jp/gaiyou/2016/h27gaiyou_meeting.pdf

JSAF レース委員会
外洋小委員会
資 料

公益財団法人日本セーリング連盟

レース委員会

外洋小委員会

J S A F レース委員会 外洋小委員会の目的、組織、業務、運営について

目的

日本国内で行われる外洋系ヨットレースが参加に 公平・公正・安全に行われる為に主催のレベル向上と標準化に向けた資料の提供する為の組織である。

組織

JSAF 理事、各加盟団体からの担当者、外洋系専門委員会からのメンバー、委員長推薦による有識者で構成される。構成メンバーは当委員会の目的遂行に対して知識と熱意があり、忍耐と努力を惜しまないこととする。

業務

1. JSAF レース委員会と協力して外洋系レースでの共同主催・公認等の審査。
2. JSAF レース委員会と協力してレース・オフィサー講習会、セミナー等の開催。
3. JSAF レース委員会と協力して外洋レース主催者為の資料の制作、配布。
4. JSAF 外洋系専門委員会へのメンバー派遣。

運営

JSAF レース委員会外洋小委員会は上記業務を遂行するにあたり、適切な運営システムを構築する。

1. 委員長、副委員長、事務局・会計、各外洋系専門委員会担当者を互選により選任する。
又、必要に応じて 担当検討グループを設ける。
2. RRS の改定時(4年毎)にレース委員会と協力して講習会を開催し、レース・オフィサーを養成する。
3. レース・アドバイザー制度を確立して レース・アドバイザーを推薦する。
4. レース・オフィサー、アドバイザー名簿を管理し、常に最新版を用意する。

JSAFレース委員会 外洋小委員会 業務分担

委員長(三浦)

- * 総括
- * 事業計画・予算等の立案・制作提出、及び同報告書の作成・提出
- * 外洋合同委員会会議への出席
- * 各専門委員会との渉外 担当メンバーとの打ち合わせ
- * 会議および講習会の開催
- * 支払いの指示(事務局と相談して)
- * その他

副委員長()

- * 委員長の補佐
- * 各ワークグループの アドバイザーとして 業務のサポート

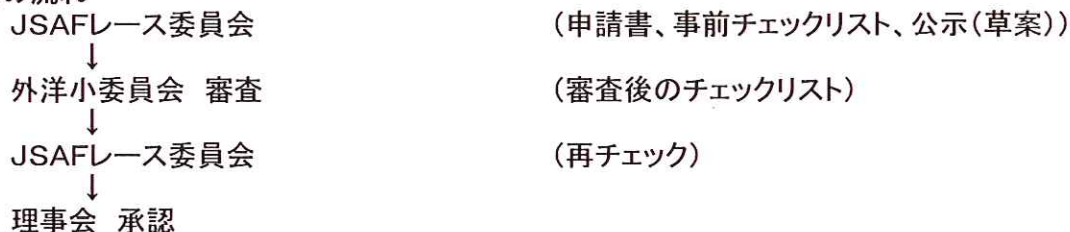
事務局 ()

- * 外洋小委員会の運営をスムーズに行うためのサポート
- * 通常の事務・会計
- * 外洋小委員会名簿の管理
- * 委員長の補佐
- * 会議および講習会の開催の公示等の制作
- * 各種資料の配布
- * 各委員会等からの通達、会議報告の配布
- * HPの管理
- * その他

外洋系レース事前審査 担当グループ

目的:外洋系レースでのJSAF主催・共同主催・後援。協力・協賛及び公認の審査

作業の流れ



主なメンバー

その他 外洋計測、外洋安全、外洋ルールからの 推薦メンバー
* 各専門委員会に メンバーの要請

レース・オフィサー検討グループ

目的:レースオフィサー制度の維持・管理

- * 現行の RO制度のがいように関する部分の 見直し改訂
- * JSAFレース委員会との連携での講習会、セミナー開催等の検討
- * レース委員会 RO小委員会メンバーに推薦、その会議等に参加
- * レース運営の標準化・レベル保持
- * 会議終了後の会議報告書の作成・提出
- * 現在 外洋小委員会で 検討されている レース・アドバイザーに関する意見等の取りまとめ

主なメンバー

外洋合同委員会 検討グループ

目的:外洋合同委員会での 必要資料等の制作等

- * 2017年は レース委員会の担当になると思われます。
- その準備等の為

主なメンバー

ジャパンカップ 検討グループ

* 現行のJCの 責任委員会等 外洋常任委員会との 交渉

主なメンバー

計測委員会担当

- * 年2回程度の 外洋計測委員会会議への参加
- * 会議終了後の会議報告書の作成・提出
- * IRC、ORCC,PHRF等 成績算出ソフトの管理、更新

主なメンバー

安全委員会担当

- * 年2回程度の ORC委員会会議への参加
- * 会議終了後の会議報告書の作成・提出

主なメンバー

ルール委員会担当

- * 年2回程度の ORC委員会会議への参加
- * 会議終了後の会議報告書の作成・提出

主なメンバー

注:各委員会担当者を設け 情報の共有化を図る。

2015/11/29 第1回外洋小委員会承認

1. 後援レースについては以下の文章で定義されている

連盟が「公認」「主催」「共同主催」及び「後援」を行う大会等の定義

及び連盟内審査手続きについて（運用基準） 平成 14 年 8月 3日制定 一部改正（平成27年6月27日）

第4項 「レース運営規則」に規定されていない「後援」について

- (1) 「加盟団体・特別加盟団体」が主催するセーリング競技会で連盟が後盾を行う大会の「後援」申請については、レース委員会で「共同主催」、「公認」に準じて審査を行ったあと理事会で審議決定する。
- (2) 第3条の条件を満たしていない「会員増強の趣旨で連盟が特に認めたセーリング競技会」については、事前に総務委員会において連盟が「後援」することが適切な大会であるかを審議決定し、競技会名をレース委員会に通知する。レース委員会においては、4（1）に準じて審査を行ったあと、理事会で審議決定する。本項に該当する大会については、原則として3年以上継続的に開催していることを条件として総務委員会に申請し、理事会で審議決定した大会に限定する。
- (3) セーリング競技会以外のイベントについては、総務委員会において、連盟として「後援」がふさわしいかどうか審査を行い、後援にふさわしいと認められる場合は理事会で審議決定する。

2. 平成27年度に承認された「後援レース」

承認番号	大会名	申請日	大会日	特異点
H27- 02	葉山マリーナ インターナショナルフレンドシップレガッタ	4/6	4/18	JSAFの会員であることがNORに記されていない
H27- 04	国際交流日本ジュニアヨットクラブ 競技会2015	4/6	7/31~8/2	特になし
H27- 09	“海の甲子園”ユースセーリングカップ	5/11	8/29~30	特になし
H27- 11	タモリカップ 福岡 2015	5/20	8/1~2	JSAFの会員であることがNORに記されていない
H27- 17	第10回 全日本社会人大型艇大会	6/15	10/24~25	特になし
H27- 19	タモリカップ富山大会2015	6/16	7/18~19	JSAFの会員であることがNORに記されていない 3年以上継続的に開催されていない
H27- 36	タモリカップ2015横浜大会	7/15	9/12	JSAFの会員であることがNORに記されていない 3年以上継続的に開催されていない
H27- 37	加山雄三 invitational 33rd RIVIERA ZUSHI MARINA CUP	7/17	10/11	JSAFの会員であることがNORに記されていない
H27- 38	ジュニアヨット国際親善大阪幼少2015(ミナトスギヤ 大阪2015)	7/21	9/20	特になし
H27- 41	第25回ジュニアヨット国際親善レガッタ2015(ミナトスギヤ 東京2015)	9/1	9/6	申請日が大会開催の直前であった
H27- 43	第22回KYC AUTUMN REGATTA 2015	8/12	9/26~10/11	複数のレースを1式のNORでまとめられており 内容が不十分であった

「後援レース」として承認をするには「共同主催」、「公認」に準じて審査を行うとあるが上記の特異点のように規定から外れることがある。

今後、後援レースについては規定、承認手順を含め見直しが必要と考える。

3. 平成27年度に承認された「後援レース」(国際大会)

承認番号	大会名	申請日	大会日
H27- 24	2015ウインドサーフィンアジア選手権	7/12	9/26~10/4

JSAF 外洋計測委員会
IRC 委員会
ORC 委員会
セイルメジャー部会
PHRF 小委員会
資 料

平成28年度 事業計画

外洋計測委員会

吉田 豊 印

日本セーリング連盟に登録された様々な大きさと型式の外洋帆走艇を JSAF が公認するレーティングシステム (IRC、ORC)によって計測し、公平で信頼性のある証書を発行することを目的として事業展開を行い、関連する委員会と協力して、オフショア・レースの継続と発展に寄与する。

1. JASF が公認する IRC レーティングシステムの一層の普及を IRC 委員会と協働して、推進する。
詳細な事業計画案は IRC 委員会による。
2. 従前業務委託で 外部組織と契約して運用してきたが、今年度から外洋計測委員会内部に ORC 委員会を組成して これを運用する。運用を適切に行い、ORC レーティングシステムの一層の普及を推進する。詳細な事業計画案は ORC 委員会による。
3. セイルメジャラー部会と協力し、セイルメジャラーへの計測技術の講習と習得。そして その適切な運用と円滑な計測業務を推進する。今年度は ODC 委員会、IRC 委員会、ORC 委員会から講師を派遣して ERS の講習をはじめ、クラスルールの講習を徹底する。
4. パフォーマンス・ハンディキャップ委員会を 八木氏を委員長が運用している。引き続き PHRF についての認識、理解を 各地のハンディキャッパーと共に会員に対して進める。
公認されたレーティングシステムと提携して、会員の増強と公認レーティングへの移行を進める。
5. ワンデザイン計測委員会に協力して、セーリング装備規則(ERS)等をはじめ計測規則の解釈に関する統一性を保ち、適切な計測業務が遂行されるように指導、監督する。
6. 外洋艇クラス協会(X35,J24,メルジェス協会)も クラスの計測業務を行うので、それらの計測状況の把握を目的として外洋計測委員会 会議において 各クラス協会から報告を得る。。
7. IRC 委員会、ORC 委員会、その他 クラス協会の計測担当者とセイルメジャラー部会の委員を含めて、外洋計測委員会 会議を開催する。各委員会の業務報告、計測実態、計測員講習 並びに養成等について 報告と討議を行う。
8. 海外のレーティングシステムについての状況を調査して、関連する書類の翻訳を行う。また それに関連して書籍や計測装備品の購入を進める。

註：年度事業計画を文章でかつ箇条書となるように作成して下さい。



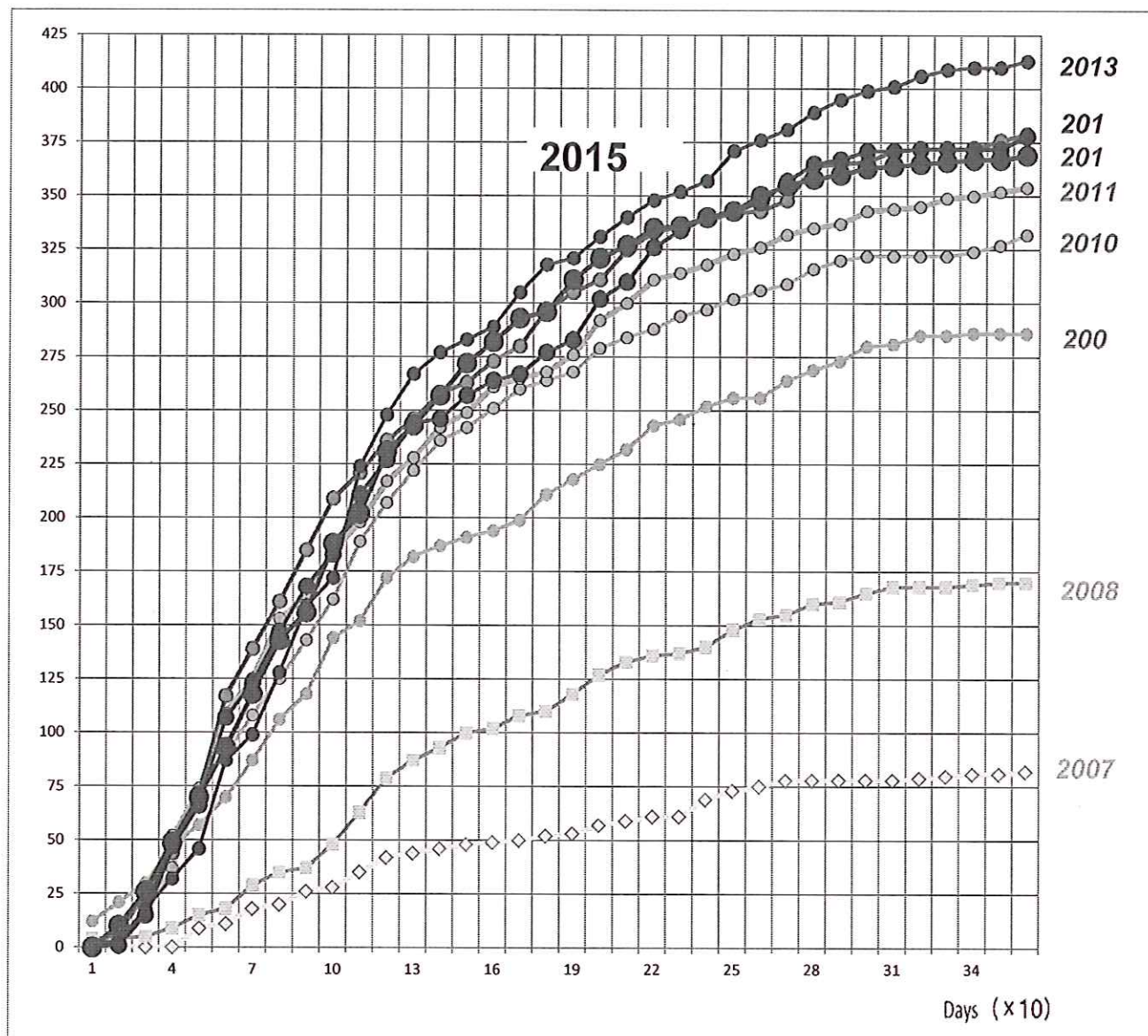
IRC Congress Meeting 2015

Appendix 4 - Report from The IRC Technical Committee

1. IRC Activity

The total number of boats issued with IRC certificates in 2005 to 2014 and to 31st August 2015 is shown below.

Country	Continent	Region	Certificate Year											
			2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2014 to 31/8/14	2015 to 31/8/15
GBR	Europe	North	1878	1839	2043	2029	1806	1766	1702	1551	1378	1407	1370	1500
FRA	Europe	North	904	966	924	1074	937	975	1016	913	859	850	772	676
ITA	Europe	North	763	840	931	962	840	905	846	814	716	706	562	485
AUS	Oceania	South	527	578	570	528	535	544	525	498	478	452	319	320
TUR	Europe	North	260	280	292	327	342	360	363	404	389	357	276	279
IRL	Europe	North	389	402	429	455	443	423	386	355	321	335	327	312
JPN	Asia	North	1	33	89	122	221	258	276	298	313	311	293	300
USA	N America	North	549	589	610	611	488	464	380	324	273	280	245	219
NED	Europe	North	58	54	152	162	172	146	138	149	151	142	133	139
SE Asia	Asia	South	50	48	49	64	72	80	77	74	129	118	47	41
ESP	Europe	North	934	155	164	165	167	159	169	134	128	109	105	90
CHN	Asia	North	0	0	0	0	37	40	46	93	64	96	57	55
HKG	Asia	South	76	85	94	120	93	93	97	94	96	88	72	65
GRE	Europe	North	0	56	109	101	105	117	104	80	63	74	72	50
BEL	Europe	North	79	91	99	100	87	74	76	64	65	72	68	55
MLT	Europe	North	49	42	47	65	64	66	62	65	54	68	53	42
UAE	Africa	South	67	56	79	67	72	68	53	61	60	58	14	13
BRA	S America	South									34	56	53	57
RSA	Africa	South	91	91	84	76	63	55	49	52	64	52	30	12
NZL	Oceania	South	15	142	97	94	78	55	46	37	39	45	29	20
GER	Europe	North	16	24	39	64	65	53	56	47	46	40	33	48
CAN	N America	North	22	24	23	32	51	60	82	67	55	38	37	36
ISR	Europe	North	27	27	21	23	23	35	34	43	42	34	28	1
CHI	S America	South						0	89	68	79	32	0	2
BUL	Europe	North				41	42	39	29	29	35	29	25	24
URU	S America	South				47	45	45	27	27	24	24	0	13
MRI	Asia	North									27	17	12	0
FIN	Europe	North				13	34	40	37	22	20	16	16	12
ARG	S America	South	0	50	90	37	27	24	13	16	11	13	0	1
ISL	Europe	North	18	14	15	14	12	13	10	13	12	13	13	12
PHI	Asia	South	19	13	13	12	13	13	14	9	10	9	3	0
CRO	Europe	North				15	20	16	10	15	12	8	6	9
NOR	Europe	North				8	9	16	11	2	7	5	0	5
COL	S America	South							21	16	0	5	0	4
Other (<5)	N/A	N/A	164	125	114	74	215	49	86	0	79	72	59	61
Totals:			6956	6624	7177	7502	7178	7051	6930	6434	6133	6031	5129	4958
As % of previous year:				95.2	108.3	104.5	95.7	98.2	98.3	92.8	95.3	98.3		96.7



		2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	前年比 (旬間比)
1	12/10	0	4	12	0	0	1	1	0	0	0
2	12/20	0	4	21	6	1	7	3	1	10	9 (10)
3	12/30	0	5	30	25	16	24	18	15	26	11 (16)
4	1/10	0	9	47	52	37	44	32	47	49	2 (23)
5	1/20	9	15	57	74	74	72	46	66	70	4 (21)
6	1/30	11	18	70	90	109	117	87	107	93	-14 (23)
7	2/10	18	29	87	108	125	139	99	123	118	-5 (25)
8	2/20	20	35	106	125	153	161	128	147	143	-4 (25)
9	2/30	26	37	118	143	163	185	159	168	156	-12 (13)
10	3/10	28	48	144	162	185	209	172	183	188	5 (32)
11	3/20	35	63	152	189	198	221	224	211	202	-9 (14)
12	3/30	42	79	172	207	217	236	248	227	231	4 (29)
13	4/10	44	87	182	222	228	246	267	244	243	-1 (12)
14	4/20	46	93	187	236	242	258	277	246	257	11 (14)
15	4/30	48	100	191	242	249	263	283	257	272	15 (15)
16	5/10	49	102	194	251	261	273	289	264	282	18 (10)
17	5/20	50	108	199	260	265	280	305	267	293	26 (11)
18	5/30	52	110	211	264	268	297	318	277	296	19 (3)
19	6/10	53	118	218	268	276	305	321	283	311	28 (15)
20	6/20	57	127	225	279	292	311	331	302	321	19 (10)
21	6/30	59	133	232	284	300	325	340	310	327	17 (6)
22	7/10	61	136	243	288	311	333	348	326	335	9 (8)
23	7/20	61	137	246	294	314	336	352	334	336	2 (1)
24	7/30	69	140	252	297	318	339	357	340	340	0 (4)
25	8/10	73	148	256	302	323	342	371	343	343	0 (3)
26	8/20	75	153	256	306	326	343	376	347	350	3 (7)
27	8/30	78	155	264	309	332	348	381	357	355	-2 (5)
28	9/10	78	160	269	316	335	364	389	365	358	-7 (3)
29	9/20	78	161	273	320	337	365	395	367	360	-7 (2)
30	9/30	78	165	280	322	343	366	399	371	363	-8 (3)
31	10/10	78	168	281	322	344	371	401	371	364	-7 (1)
32	10/20	79	168	285	322	345	372	406	372	365	-7 (1)
33	10/30	80	168	285	322	349	372	409	372	366	-6 (1)
34	11/10	81	169	286	324	350	372	410	372	367	-5 (1)
35	11/20	81	170	286	327	352	376	410	372	367	-5 (0)
36	11/30	82	170	286	332	354	379	413	378	369	-9 (2)

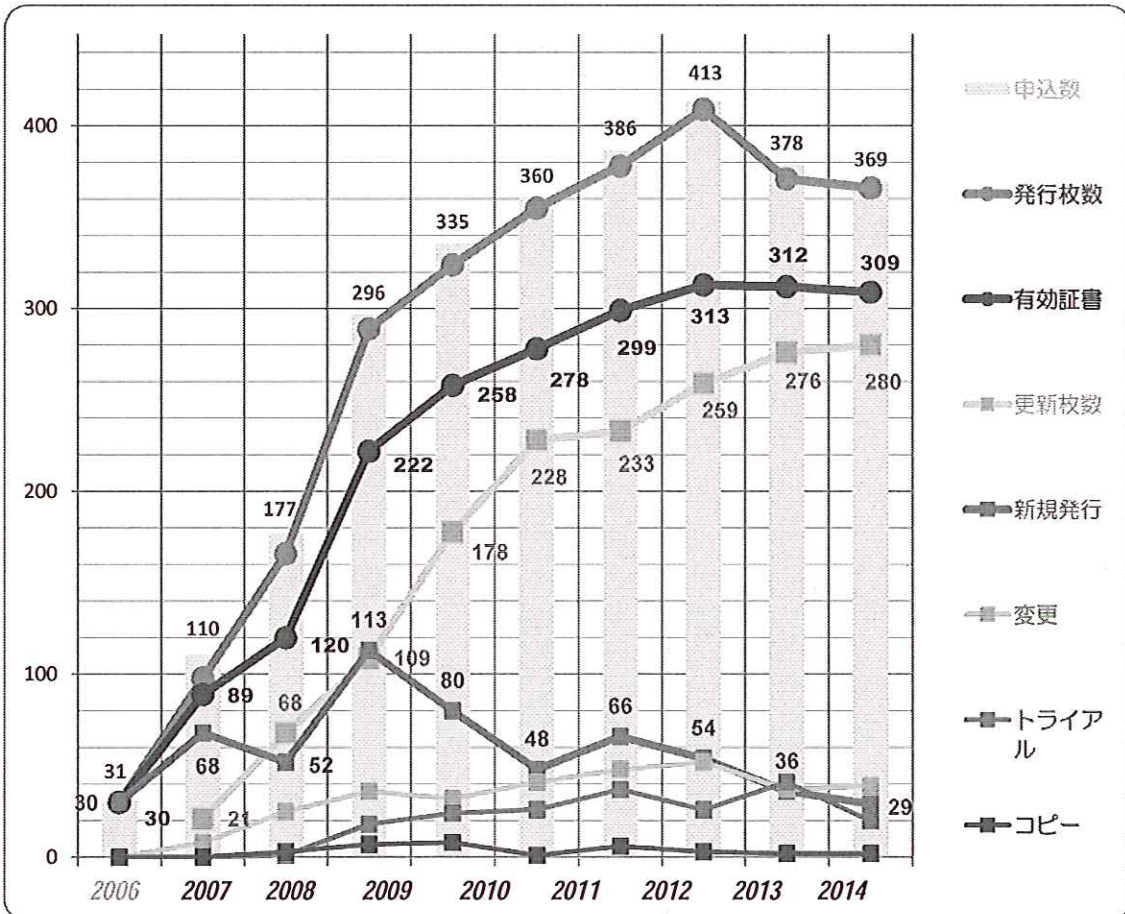
IRC証書発行実績 2015/12/03

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	
ENDORSED	12	47	75	107	113	114	133	149	153	157	新規= 14 / 更新=143
NORMAL	18	42	45	115	145	162	166	164	159	152	新規= 15 / 更新=137
Valid Cert.	30	89	120	222	258	276	299	313	312	309	新規= 29 / 更新=280
Trial	0	1	18	24	26	37	26	41	20	16	発行枚数= 14 枚
Copy & Ref.	0	0	3	7	8	1	6	3	2	2	発行枚数= 2 枚
Amendment	0	8	25	36	32	41	48	52	37	39	発行枚数= 38 枚
Total issue	30	98	166	289	324	355	379	409	371	366	発行枚数= 359枚
事務局受付数	31	110	177	296	335	360	386	413	378	369	
(新規受付)	31	71	51	114	81	48	69	55	39	29	

(*2006年申込み→2007年度版での発行数= 20)

2015/12/02

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	
Trial	0	1	18	24	26	37	26	41	20	16	トライアル
Copy	0	0	3	7	8	1	6	3	2	2	コピー
Amendment	0	8	25	36	32	41	48	52	37	39	変更
Valid Certificates	30	89	120	222	258	278	299	313	312	309	有効証書
Total issue	30	98	166	289	324	355	378	409	371	366	発行枚数
Cert. proposal	31	110	177	296	335	360	386	413	378	369	申告（申込数）
New application	31	71	51	114	81	48	69	55	39	29	新規申告
Issued New Application	30	68	52	113	80	48	66	54	36	29	新規発行
Issued Revalidation	0	21	68	109	178	228	233	259	276	280	更新発行



平成28年度 事業計画（案）

IRC 委員会

川合 紀行 印

IRC委員会事業計画

1. 今期の登録数

日本の外洋レースへの導入を始めて今年度で10年目を迎える。ほぼ国内全ての地域でIRCが導入された。昨年度とくらべると、登録艇数、証書発行はほぼ横倍。委員会としては日本国内ではこの規模が現有最大の数値になると理解している。従って今期の登録数は現状維持の300艇と証書発行400枚を目標としたい。

今後もIRCレーティングシステムの一層の普及と拡充、そして利用会員の利便性を増進して、引き続き委員会としての業務を継続し、これを更に展開する。

2. IRCレーティングの実績(証書発行)

2007年度	96艇	109枚の証書発行
2008年度	120艇	150枚の証書発行
2009年度	220艇	300枚の証書発行
2010年度	259艇	334枚の証書発行
2011年度	275艇	348枚の証書発行
2012年度	299艇	380枚の証書発行
2013年度	314艇	412枚の証書発行
2014年度	312艇	371枚の証書発行
2015年度	309艇	366枚の証書発行

3. IRC普及活動

国内でのIRCルールの利用普及のために各地で開催されるレースについてIRC委員会として継続的に支援する。

4. 国際会議への参加

IRCコンGRESにも引き続き委員を派遣して、国際的な活動でも貢献する。

ISAF総会には今年度も角氏(IRCレーティングオフィス)を派遣する。角氏の技術報告も引き続き重要なので、国際委員会と共同して派遣を継続したい。

5. IRC委員会会議

IRC委員会会議は年間に2回から3回開催している。

業務遂行に必要な事柄、ルールの解釈、計測員の認定、国際会議の報告、等を行う。

参加者は10-15名。

6. 計測機材の維持

計測機材についてはJSAFで 5トン 12トン 20トンの3機種を保有して運用している。
それぞれの重量計の定期的なキャリブレーションを順次イギリスに送り実施する。

7. 国内で行なわれる主要規格レースへの支援

今年度もジャパンカップをはじめ、沖縄東海、ミドルボート全日本、ミニトン全日本等のレースに 要請があれば IRC委員の派遣を含めて支援(計測技術)を行う。

8. 計測員に対する更新講習会 ERS 講習会と認定

今年度は計測員の更新年度(2 年毎)であり 関西、東海、関東、の3箇所での講習会を予定している。

以上

註：年度事業計画を文章でかつ箇条書となるように作成して下さい。



IRC コングレス 2015 議事内容結果報告

2015/10/31 角

2015 年度の IRC コングレスがフランスマルセイユ市で開催され、日本からは日本 IRC オーナーズ協会事務局の坂本氏およびIRCレーティングオフィスの角が参加した。

議事内容結果について以下の通り報告する。

日時:2015 年 10 月 10 日

場所:Société Nautique de Marseille

出席者

Chairman	Peter Wykeham-Martin
Vice Chairman	Alp Doguoglu
Vice Chairman	Malcolm Runnalls
IRC Technical Committee	James Dadd
IRC Technical Committee	Jean Sans

AUS	Glen Stanaway
BEL	Carl Sabbe
BUL	Nikola Dukov
CAN	John Crawley
FRA	Jean-Philippe Cau
FRA	Yves Ginoux
GBR	Mel Sharp
GER	Kay-Enno Brink
HKG	Gideon Mowser
IRL	Mark Mills
JPN	Kenji Sakamoto
JPN	Haru-Hiko Kaku
MLT	Godwin Zammit
NED	Erik van Vuuren



TUR	Cahit Uren
USA	Nathan Titcomb
USA	Eric Baittinger
IMA	Andrew McIrvine
IMA	Peter Lawson
RORC	Michael Boyd (Commodore)
RORC	Steven Anderson (Vice Commodore)
RORC	Eddie Warden-Owen (CEO)
RORC Rating Office	Jenny Howells
RORC Rating Office	Emma Smith
RORC Rating Office	Mike Urwin
RORC Rating Office	Andrew Yates
UNCL Centre de Calcul	Jean Claude Merlivat
UNCL Centre de Calcul	Matthieu Achard
UNCL Centre de Calcul	Rose Lounes
RYA Technical	Sebastian Edmonds

ナショナルオーソリティーレポート(抜粋)

AUS: クラブルースは減少傾向にあるが、個々のイベントは根強い人気がある。この傾向は他の国々にも見られる。

セールのスタック: 30%のセーラーがレース中のセールのスタックを行なっている、つまりルールチートしている、という統計。ルールチートを取り締まることの難しさは確かにある。英国では、このような行為に対してセーラーが抗議を出すことを躊躇することが問題である、との指摘。

FRA: IRC はオーナーからの支持を得ているが、新しい、若いオーナーは少ない。ハイレベルとローレベルの各差は存在する。

GER: ドイツは国内イベントで IRC は使われていないが、海外、主に地中海のレース参加のために



IRC 証書を持つ大型艇が多く存在する。

GBR: プロモーションのためのスタートアップおよびシングルイベント証書プログラムのおかげで IRC 証書の増加が見られた。

JPN: ORC クラブ証書の数値よりも IRC スタンダード値の採用を決定。ERS,RRS,IRC,ORC,OSR 間の用語の統一の要望。

NED: ORC と IRC のデュアルスコアリングはほぼ同じ結果が見られた。IRC 証書を持つボートは主に国際レースに参加している。かつては ORC と IRC では艇に明らかな違いが確認できたが、今はそれはなく、どのようにボートを艦装しレースするかの違いのみとなった。オランダとしては 2016 年のコモドアーズカップに参加することを望んでいる。

USA: 250 艇の IRC 艇は多くは北東部に集中している。米国には多くのルールがあり過ぎる。IRC, ORR, HPR, PHRF, TN+そしてあらたに NRRS。レース参加数が減少するとルールのせいにして、異なるルールを採用したり、オーナーが自分のボートに有利(と思われる)なルールを採用するレースに参加するといった、間違った傾向が見られるようになった。

IRCTC からのルール変更に関するサブミッション

提案の審議結果は以下の通り。

1. 規則文言の訂正—承認 文章の整理
2. ファーリングヘッドセラー—承認 混乱する言い回しの整理
3. デイボートのリグ調整 —承認 リグ調整の正しい内容への変更
4. デイボートの定義—承認 デイボートの意図している艇種への言及
5. 複数ヘッドセールの同時展開について—承認 条文の明確化
6. 証書へのバルブ重量記載—バルブ重量の計測方法について、計測マニュアル改訂版に追加される予定。
バルブ重量はキールタイプ 9-13 でのみレーティング考慮される。
承認
7. レーティングレビュー限界 30 トンを越えるような艇にとって重量 200kg
の限界は現実的ではない—承認
8. カッターリグの定義—承認 定義の追加
9. スピネーカーの定義—承認 リーフ可能なスピネーカーへの対応

10. 定義の掲載順の見直し—承認 見易さのため

IRC 艇の最少 LH を定める可能性がある旨、マイクアーウィンから報告があった。
2015 年 1 月 1 日以前に IRC 証書の発行を受けたボート以外は、最少ハルレングスを 5.00 m とする。

承認

ルールオーソリティーからのサブミッション

FRA : エンドースド証書艇は NOR による 22.4 の変更を認めないようにする、というルール変更。

却下

IRL より、 kongress 当日に、提案があったのは、エンドースド計測の信憑性についてで、計測者や計測日のデータを証書に記載すべきというもの。

また、証書(計測)の有効期限を 3 年に定め、それを越えた場合には再計測を義務付けては、という提案も。エンドースドでも、古い証書はチェックが必要だ。

議長から、このサブミッションは、来年の kongress に正式な手続きを踏んで提出していただきたい旨お願いがあった。

ISAF 会議へのサブミッションについて

3 つのサブミッションが IRC より提出されている。

1. 090-15 Equipment Committee に対しては、セール計測値の略語の追加。
マイクアーウィンが、UMS の用語統一に関してイニシアチブを取って作業に取り組んでいる。

2. 094-15 同じく Equipment Committee に対してで、セールのコーナーポイント計測の方法を明確に規定せよ、というもの。

3. 136-15 Oceanic and Offshore Committee へ。これは、IRC に世界選手権開催の権利を与えよ、というもので、過去にも何度か提案してきましたが、ブラックボックス があるという理由で、却下されてきたもの。

今回は、ISAF クラスとして認められた 2 つのレーティングシステムの一方にのみ世界選手権開催

の権利をあたえるのはおかしい、との理由。

議長は、もしISAFがこのサブミッションを認めた場合、IRCとしてどのような世界選手権を開催すべきかを会場に訊ねた。各国代表者は、国に帰って、自国内の事情を鑑みてどのように世界選手権を可能にすることができるかを議論していただきたい。

IRCの将来

シングルイベントレーティングやスタートアップ(新規取得時のディスカウント制度)は英国では成功しているが、他の国でうまくいくかどうかを見極めることはまだ困難。

オーストラリアでは、セールメーカー、デザイナー、イベントディレクターがボートオーナーと話す機会を設け、ボートの最適化や準備についての相談に乗るといったイベントで普及活動を行なっている。ただこれはある程度レベルの高いセーラー達の話。

UMS

定義の統一とセールインプットシートに関しては、かなり共通のプラットフォームができつつある。米国のSAPという会社が、データベースの構築をUSセーリングと協力して進めている。

次回コンGRESは、英国カウズにて、10月7日-9日に開催されることが決まった。



以上

2015IRCコンGRES報告書
資料

・IRC Congress Meeting 2015 MINUTES

平成28年度 事業計画（案）

ORC 委員会

吉田 豊 印

ORC 委員会事業計画

1. ORC 委員会

日本セーリング連盟が ORC レーティングシステムの運用を目指して、今年度 新たに ORC 委員会を構築する。委員会の委員構成は 10 名程度を予定。

現状 ORC のユーザーは 関東と西内海、関西ヨットクラブに偏っている。昨年度は 登録艇数は約 70 隻であった。委員会としては 日本国内各地での ORC 採用を目指して 様々な施策を実施したい。

ORC レーティングシステムの一層の普及と拡充、そして 利用会員の利便性を増進して、これのために委員会を立ち上げ、切れ目なく 業務を継続し、ユーザーの期待に応えたい。

予算に関しては 今年度は 新たに始める事業なので、セミナーや講習会の実施、並びに 備品購入とかで予算が膨らんだ。次年度以降は 再度の証書発行費用の見直しや 発行数量の増加で、この赤字部分を改善したい。

2. ORC レーティングの実績(証書発行)

2015 年度 ORCC 60艇

ORC-I 8 艇(KYC)

3. ORC 普及活動

国内での ORC ルールの利用普及のために 各地で開催されるレースについて ORC 委員会として継続的に支援する。

また 今期は ORC から講師を呼んで ORC セミナーを関東と関西で 実施したい。

講師の滞在中に 併せて 計測員養成講習会を 関西で開催したい。

ORC を採用するレースを 各レース主催者に働きかけていく。

特に今年度行われるジャパンカップには ORC もクラスとして開催を要請していく。

4. 国際会議への参加

ORC コンgressにも 委員を派遣して、国際的な活動でも貢献する。

ISAF 総会には 今年度も小林 昇氏を国際委員会と共同して派遣を継続したい。

5. ORC 委員会会議

ORC 委員会会議を 委員会設立の年度なので、年間に 4 回程度 開催したい。

業務遂行に必要な事柄、ルールの解釈、計測員の認定、国際会議の報告、等を行う。

参加者は 10 名程度を予定。

6. 計測員に対する講習会 ERS 講習会と認定

今年度は 委員会が新設されるので、現行計測員に対する ERS 講習や計測技術講習を セミナーと同時に 関西で行う。現行計測員の技量確認を行い、その中で選択をしたい。

以上

註：年度事業計画を文章でかつ箇条書となるように作成して下さい。

2016 年度 ORC 証書の更新について (ORC-C ORC-I)

外洋のレース関係者の方々には 日頃よりお世話になり、有り難うございます。また 既に お聞き及びの方もいらっしゃると思いますが、ORCレーティングシステムの日本での運用について 変更があり、皆様に お知らせいたします。

今年度の ISAF 総会において 日本セーリング連盟(JSAF)と ORC(OFFSHORE RACING CONGRESS)との会談が行われて、ORC のレーティングシステムの運用は JSAF が担うことになりました。実務的には JSAF 計測委員会で ORC 委員会を 新たに創設して、これに対応いたします。日本 ORC 協会が担ってきた役割を 今後 この委員会で担当していくことになります。

当面の業務としては 2016 年度の証書の更新作業になると思います。これにつきましては 年内に HP を立ち上げて、この HP を経由して 新年度の更新の申し込みを受け付けるように致します。手順については 順次 この HP に掲示して ご説明いたします。また、更新申込書や変更の申込書等の申込書類も掲示する予定であります。

ORC を利用されている方々には 業務の引き継ぎに際し ご不便をお掛けすることもあると思いますが、全力にて 対応させていただきます。また 今後とも ORC レーティングシステムを 引き続き ご利用いただきますように お願い申し上げます。

平成 27 年 12 月 21 日

JSAF 外洋計測委員会 ORC 委員会 事務局

日本 ORC 協会 (ORCAN) と JSAF の業務委託契約が更新されないことになり、2016 年度(2016 年 4 月 1 日より)の ORC 証書の更新、新規取得などは当 ORCAN では行わない事になりました。

今後は JSAF 計測委員会がダイレクトに ORC 証書の発行を行う事になります。

4 月 1 日より 2016 年度版を使って頂けるように、スムーズな移行を目指して双方で調整しております。

ORCAN での ORC 証書発行は終了いたしますが、JSAF により継続的に発行作業が行われる予定です。

ユーザーの皆様にはご心配をおかけいたしますが、今後とも ORC 計測をよろしくお願い申し上げます。

日本 ORC 協会計測事務局

2016 年 1 月 18 日

2016 年度の ORC レーティング証書 申請手順 説明書

日本セーリング連盟 外洋計測委員会 ORC 委員会

ORC クラブ証書所有艇の皆さまへ

日頃より ORC レーティングをご利用いただき有り難うございます。

早速ですが、今回 皆さまに ORC レーティング証書に関して ①ORC 申請申込書 ②ORC 計測関係料金表 ③申請手順 説明書 を メールに添付して お送りいたします。

何卒 引き続き ORC 証書の「更新」を お申込みいただき、本年度の レースにも お使い頂きますように お願い申し上げます。

また 日本 ORC 協会からの事務処理方式を引き続き、ORC の申し込みや 証書の発給には 総て メールを介して 行います。これも経費軽減のための処置になります。何卒 ご理解いただきますようお願い申し上げます。

既に ORC 委員会のホームページ (<http://jsaforc.org/wp/>) は 開設を済ませております。何分 創設後 間もないので、内容は まだ十分ではありません。今後 充実を図っていく予定です。2016 年度 IMS と ORC のルール、それに グリーンブックは 掲示を済ませております。また これらの翻訳作業は 現在 継続中です。翻訳が終了次第、HP に掲示する予定です。

ルールは精査中ですが、現在のところ 昨年度のメインセールの計測方法の変更は 変更前の方法に戻っております。

また 4 月初旬から ORC のレースを予定されている方々につきましては 更新申込書が到着後 出来るだけ早く、更新のお申し込みをして頂きますようお願い申し上げます。発行手続きは 到着順に順次 証書の発行を 進めてまいります。

何卒 お早く お申込みいただきますようお願い申し上げます。

お手数とは存じますが、宜しく お願い申し上げます。

更新証書発行手順(2016 年度)

★今回 ORC 委員会より「ORC 申請申込書」を ORC 証書を持たれているオーナーの方々に メールにて お送りいたします。

★オーナー又は 代理人が「ORC 申請申込書」に 必要事項をご記入の上、これを ORC 委員会あてに メールに 添付して お申し込みください。

メールアドレス :: head@jsaf.or.jp

件名: 艇名(英文字)+セール番号 を ご記入ください。

★所定の「手数料」を 今回お送りいたしました「ORC 計測関係料金表」を参照頂き、所定の料金を ご入金ください。JSAF 事務局で入金確認後 発行作業に進みます。

お振込みについては 振込者名に 船名とセール番号を ご記入ください。

振込先 : 三菱東京 UFJ 銀行 渋谷中央支店 (普通)1196343

口座名 : 公益財団法人 日本セーリング連盟 外洋本部

★証書の記載内容に変更や 計測希望などがある場合には 申込書のコメント欄にご記入ください。ORC 事務局より ご連絡を差し上げ、必要書類、手続き等をお届け また お知らせいたします。

★証書発行は 3 月 20 日以降 ORC 委員会より 指定アドレスに 直接 メールに 添付して 送付いたします。

★また 従前からの加盟団体 ORC 担当者や計測担当者経由での お申し込みも受け付けます。

★ご不明な点がございましたらメールにて ORC 委員会事務局まで メールにて お問い合わせください。

JSAF の ORC ホームページ : <http://jsaforc.org/wp/>

JSAF の ORC 委員会 事務局 : office@jsaforc.org

ORC計測関係料金表

(2016年版)
外洋計測委員会 ORC委員会

ORC計測証書には ORCC証書と ORC-I証書の2種類の証書があります。ORC証書の取得を お申し込みになる方は レース主催者が公示する内容を確認して、必要な証書をお申し込み下さい。
また、証書発行に関わる料金については、1. 証書申請費用 2. 計測実施料 3. その他 から構成されています。

★ORCC (ORC Club)証書

オーナー自身により計測した数値を申告することによって ORCC証書を取得することができます。
計測方法や申告方法については ORCのHP(JSAF)に詳しく説明があります。また 部分的に計測をORC公認計測員やセールメジャーに依頼(有償)することもできます。

★ORC-I (ORC International)証書

計測を、公認ORC計測員に その艇体やセールのIMS計測作業を依頼して作成する証書です。ORC計測員について その計測を依頼するときは 下記の規定料金に従って 後日 請求されます。計測作業を依頼したい場合には 加盟団体の事務局、計測担当者や計測員、ORC委員会にお問い合わせください。

セール数値の計測をセールメジャーに依頼して ORC-I証書の申告に必要な計測データを得ることができます。

1. 申請費用

証書発行種別	2016年度 料金	
	ORCC 証書	ORC-I 証書
新規申し込み	¥18,000.	¥40,000
更新(年度毎)	¥13,000.	¥35,000.
修正・変更	¥15,000.	¥20,000.
オーナー変更	¥18,000.	¥24,000.
ワンレガッタの体重変更	¥7,000.	
証書試算	¥7,000.	
他艇の証書のコピー	¥1,000.	
パフォーマンス証書	¥3,000.	
スタビリティータシート	¥1,000.	
証書発行費用振込先 (料金は前払いになります)	三菱東京UFJ銀行 渋谷中央支店 (普通)1196343 公益財団法人日本セーリング連盟 外洋本部 注:振込者名は 艇名とセール番号をご記入ください。	

注:

1. 更新時に 修正・変更・再登録等を合わせて行う場合、修正・変更 の費用は掛りません。
2. 証書試算に関しては 「有効な証書」を取得している場合に限りです。
3. 発行する証書に関しては 申請されたメールアドレスに 添付して送られてきます。

4. 証書の発行費用は 前払いになります。入金確認をしてから 証書発行手続きに入ります。
5. 外国為替の変動により、この料金表は、年度中に変更される場合があります。
6. 過去に取得した証書の料金が未払いの場合には 証書の申し込みをしても支払いがあるまで 発行が止まります。

2. ORC計測実施料 (主にORC-I 証書の発行を求める場合)

計測実施料は、ORC-I 証書の発行に際して、認定 ORC 計測員が実際に艇を計測するための費用です。下記の規定料金により 後日 請求されます。

項目	料金
船体計測	¥7,500 x 所用時間
リグ計測	¥7,500 x 所用時間
セール計測	
メインセール	1枚 ¥300. x LOA m
ヘッドセール	1枚 ¥300 x LOA m
スピネカー	1枚 ¥230 x LOA m
計測証明 作成	¥3,000.

注)

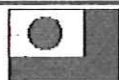
- 1) ORCメジャーによる計測は、状況に応じて計測員、計測補助員等の数は変化しますが 請求金額は固定です。
- 2) 雨天や強風などの天候等により、計測員が計測場所に到着後、計測の延期となった場合、延長時間手当てが請求されます。
- 3) 艇を事前に計測状態に準備することは ルールで定められたオーナーの責任です。艇が計測状態になっていない場合は、計測状態になるまでの待機時間が計測所用時間に加算されます。
- 4) 計測がオーナーの都合により当日キャンセルされても、計測員が現地に來てしまった場合は、交通費等の基本的な経費が発生します。
- 5) セール計測に関しては、証書の数値を変更する場合以外は、直接セールメジャーにお支払い下さい。

3. その他の費用および補足事項

- 1) クレーン費用、上下架費用、船台使用料、借用料、栈橋係留費用などのマリーナ施設使用に関する費用は、計測を受ける艇の負担です。直接マリーナ等にお支払い下さい。
- 2) 不測の事態により計測が延期され待機した場合、1 日に付き 1 人 ¥15,000 を標準とします。
- 3) 交通費・宿泊費は実費とします。拘束される旅行時間については、1 時間あたり ¥2,500 を標準とします。
- 4) 重量計測用にクレーンを使用する場合、複数オーナーと相談し、手配して、少しでも各艇の負担を軽減することを推奨します。
- 5) 申告書(Application Form) 作成費用
申請者が IRC 計測員、レーティングオフィス等に申告書の記載を依頼した場合、一件に付き ¥5,000 の費用が必要になります。

4. 計測申込先 及び ORCに関する問い合わせ先

1. 各外洋加盟団体の IRC 担当者 または ORC計測員へお問い合わせ下さい。
2. メールアドレス JSAF ORC事務局 office@jsaforc.org
3. ホームページ JSAF ORC委員会 <http://jsaforc.org/wp/>をご覧ください。



JAPAN
SAILING
FEDERATION

ORC証書 申請申込書

ORC委員会

(公財)日本セーリング連盟 宛

提出先:JSAF事務局 :E-mail :head@jsaf.or.jp

*:入力必須項目(必ず記載してください)

* 所属加盟団体 :	泊 地:	*セール番号:
* 艇 名 :	更新・変更等 申込時 注意事項	
* 艇 種 :	* 各種申告書、セイル等の変更のある場合は その値の書かれたもの (エクセル版で添付)	
* 特急申請 :	後日 セールメーカー等から データが送られて来る場合があります 事務局の混乱を招きますので ご協力お願いいたします。	
* 申込種類 :	更新 ・ 変更 ・ 新規	
* 申し込み種別 :	ORCC ORC-I	
* 最新証書番号 :	新規の場合不要	! 加盟団体の 会員番号では ありません
* オーナー氏名 :	* JSAF会員番号 :	
* 住 所 :	〒	
* E-Mail アドレス :		

証書記載英文表記

* Owner Name :	Phone :
* Address :	
* Boat Name :	

連絡責任者(証書送付先):オーナー以外の場合記載願います

* 氏 名 :			
* 住 所 :	〒		
* E-Mail アドレス :			
* 電 話 :	()	FAX :	()

申 込 日 :

コメント欄: 書に変更、実測希望、体重変更等を希望する場合には 下記に記載ください。後日 事務局よりご連絡いたします

注意事項:

- ★証書発行費用は申込時にお支払いください。費用に関しては ORC計測料金表を参照ください。
- 振込口座:三菱東京UFJ銀行 渋谷中央支店(普)1196343 公益財団法人日本セーリング連盟 外洋本部
- お振込み際は 艇名とセール番号で お振込みください。
- ★ORCの証書発行に関する ご質問があれば メールにてお問い合わせください。
- ★メールアドレス:office@jsaforc.org ★HP : <http://jsaforc.org/wp/>
- ★証書の更新申請に際して 変更を同時に希望する場合には その内容をコメント欄に記載ください。
- ★証書発行に関しては 必要書類を全部受け取ってから 約10営業日で メールに添付して お届けします。
- 但し 3-4月の シーズン初めに関しては 事務上の都合から もう少し 時間の掛かる場合があります。
- ★計測実務に関する請求書は ORC-I証書に同封されて送られてきます。早急にお支払いください。
- ★本申込書に記載され氏名、住所等の情報は ORC委員会のみで使用されて、管理されます。

事務局使用欄

受付日	証書発効日	証書番号
-----	-------	------



World Leader in Racing Technology

2016 年 ORC Rating Rule 変更点

(作成 2016 年 1 月 30 日、JSAF ORC 委員会)

2016 年 IMS 及び ORC Rating System の変更点を Rule Book の変更記述に沿って要点をご説明します。
詳細は Rule Book を参照されたい。和訳版も発行しています。

IMS(International Measurement System)2016 の変更

Part B ハル

B1.1 ORC ルールはモノハルのみを対象とするが、「アペンデージがハルに接合している部分での凹みを除き」との記述を追加した。

注：これは、カンテイングキール装着艇で、その取付部で凹み部分ができてしまうことを例外扱いするための記述のようである。

B4.1(s) 計測状態に「ビルジボードは完全に上げておくこと」と記述を追加した。

Part C アペンデージ

C4.10 ダブルキール (ツインキール) の計測方法はビルジボードと同じように取扱い、それにバルブが取り付けられている場合の計測方法も規定された。

Part E スタビリティ

その艇のブームを使ってウェイトを吊るして傾斜試験する場合の記述を追加した。

E2.2(b) ブームが中心線上にあるときにブームを水平にセットしておくこと。

E2.2(c) ブームにウェイトを吊るす前に基準値 (“as a datum” を追記) としてヒール角度を記録すること。昨年まで曖昧だったが、重量のあるブームを左右に移動するために左右でそれぞれ基準値 (datum) を取りなさい、と明確に記述された。

E2.7(b) 傾斜試験をブームを使って行なう場合、右舷と左舷それぞれのウェイトを吊るしたポイントと船体の中心線 (中心面) までの距離を計測し、その平均とする、と修正された。

Part F リグ

F8.1(a,b) マスト重量・重心計測する場合、バックステー含むことになった。これは ERS の定義が変わったことにあわせて変更としている。

F8.2 マスト重量・重心計測する場合に、上記に合わせて装備を整えるよう記載している。(言っている内容に変化は無いようだが、少し気をつけた記述にしたようである)

F9.5 **Number of runners.** ランニングバックステイなど “runners” のペアの数を記録する上で、upper limit mark より下でマスト内に入ったバックステーであっても、upper limit mark よりも上でマスト内構造物に取り付けられていれば “runner” としてカウントしなくて良いとした。

Part G SAILS

G2.1 メインセールのガース計測ポイントの “中間の出っ張り” に関して 2015 年度に変更された、最後の文節の部分は削除され、ERS H5.2 の計測法に戻された。

G6.4 対称スピンネーカーに於いても、ラフ長さ (SLU) とリーチ長さ (SLE) を計測 (申告) するようになった。

セール計測の略号が UMS に向けてのステップとして変更された。この変更は Part G の各項で行なわれているが、他の関連 Part に於いても変更があるので注意してほしい。

Sail measurements abbreviations before and after 01/01/2016

(セール計測略語 2016 年 1 月 1 日前と後)

	Dimension	Old Abbreviation	New Abbreviation
Mainsail	Mainsail Quarter Width	MGL	MQW
	Mainsail Half Width	MGM	MHW
	Mainsail Three Quarter Width	MGU	MTW
	Mainsail Upper Width	MGT	MUW
	Mainsail Top Width	HB	MHB

Headsail	Headsail Luff Length	JL	HLU
	Headsail Quarter Width	JGL	HQW
	Headsail Half Width	JGM	HHW
	Headsail Three Quarter Width	JGU	HTW
	Headsail Upper Width	JGT	HUW
	Headsail Top Width	JH	HHB
	Headsail Luff Perpendicular	LPG	HLP
Spinnaker	Spinnaker Luff Length	SL (SLU)	SLU
	Spinnaker Leech Length	SL (SLE)	SLE
	Spinnaker Foot Length	SF (ASF)	SFL
	Spinnaker Half Width	SMG (AMG)	SHW
Mizzen	Mizzen Quarter Width	MGLY	MQWY
	Mizzen Half Width	MGMY	MHWY
	Mizzen Three Quarter Width	MGUY	MTWY
	Mizzen Upper Width	MGTY	MUWY
	Mizzen Top Width	HBY	MHBY

ORC Rating System 2016 (ORC International & OR Club)の変更

106 Stability

ORC 証書発行可否の判断をする LPS(正復原力限界角度)下限値やウォーターバラストまたはカンテイングキールを備えた艇の BLR Index (Ballast Leeward Recovery /風下バラスト回復係数)を廃止することにより、106.1、106.3、106.4、106.5などを削除し、Stability Index の定義だけを残した。ヨットのレースエントリー資格があるかどうかの判断は Offshore Special Regulations で既定している Category によることとした。

108.4 は完全に削除された。

(旧 108.4: 調整式インナーフォアステイを取付ける場合、一番前のマストのシアラインから上 $0.225*IG$ と $0.75*IG$ の間に取り付けられなくてはならない)

205.3 ライフラインのテンションに関する事でこの項は追加された。

RRS 49.2 の文章を部分的に OSR Regulation 3.14.2 の文章に置き換えるようにして、ライフラインのタワミを規制した。

より具体的な OSR Regulation の文章に置き換えて Offshore としての統一性もたせた。

206.1 IMS F9.8 に準じて申告されて、111.4(d) により優遇されている「ヘッドセールファラーとの組合せで申告されたヘッドセール」に対して、幾つかの制限をつけているが、

“ヘッドステーに展開するヘッドセールとして証書に記載されている最大面積の 95% より小さくできない” と記述を追加した。

注: このルール主旨は 1 枚のみのヘッドセールを使い強風対応するときにファールリングすることで空力特性が下がることを考慮して、優遇している。その一方、**HLP** が **J** の 110% より大きなものを 1 枚だけ使う、という制限をつけているがラフ長さに対する制限は無い。

例えば、強風予報のレースでファラーで巻き取ったセールを使うことになるより、小さなヘッドセールに積み替えて (何らかの理由をつけて) 参加することを選択したくなるが、これはルールの主旨には合致しない。

402.10 Performance Curve Scoring で、優勝艇の証書が正しくないと判明した場合の対処方が追加された。

勝利艇が、Rules 303.6, 305.2(b) or (c) に依って、その証書に適合していないことが判明した場合に限って、レース結果はレース後に採点しなおすことができる。その場合、再計算されたあとの最良の Implied Wind の艇の風速が修正時間の計算に用いられる。

Rule 303.6: 証書が不適合であることが その艇の瑕疵によるものではないと、確たる証拠を Rating Authority が持っている場合。

305.2(b) or (c): measurement protest に依って証書の不適合が発見され、GPH の差異が 0.1% を超えた場合。

403.3 Time-On-Time (ToT) Scoring での Time Allowance は、レースの経過時間と共に増えていく。
と変更されたが、ミスプリントによる変更とされた。

ORC International & ORC Club 証書の変更

ORC Sportboat Class を定義するための重要な係数として、LSM0 と Displacement/Length Ratio を証書に記載することになった。

以上

八木達郎

- 2015 年度の「オープンレース」における「JSAF 会員」1～2名の乗艇を参加資格に盛り込むことにおいて。

「初島ダブルハンド」(97艇)ではこれを100%達成することができました。(元々会員が多い)

- 「スバルザカップレース」(98艇)ではこれを2016年度の目標にします。(現在は65%ほど)
これらのレースでは、参加することだけを目指にするのではなく、全艇を一種類のレーティングにしてレーティングバンドごとにグループ分けをおこない、競い合う楽しみや「ヨットレース」のスキルを上げることを目標にしています。これが会員増につながると思っています。

- 「デュアルスコアリング」の普及について

「逗子マリーナカップ」(90艇)では「デュアルスコアリング」つまり「IRC」の艇も「ORC」の艇もすべて「PHRF」のレーティングで統一結果を出す予定でした。(残念ながら荒天のためノーレースになってしまいました。

しかしこの決定は細かくグループ分けをしてスキルを磨くのが目的ではなく、「オープンレース」らしく総合成績を出すのが目的でした。(レーティングバンドでグループ分けをしなければあまり意味はないと思います。)

デュアルでスコアリングされると、結果が多少違ってくるので(ほとんど同じに出ますが)クレームの対象になるのではないかと懸念する向きもあるかと思いますが、そんな時は「スピードポテンシャルの算出方法が違うだけ。」ということにしています。それよりも、どのレーティングの結果が一番「違和感」がないかで評価してほしいと思います。

- 「オープンレース」の「イベント化」について

これは近年の傾向なのですが、主催者が参加艇を増やしたくて、「レース」よりも抱き合わせの「イベント」のほうに重きを置いた運営が目立つようになりました。どちらかというと競い合う楽しみよりも参加すること自体が楽しみになるお祭りの要素が大きな「レース」と言えます。このようなレースでは「全艇の安全」を考えてちょっとした荒天でも「ノーレース」にすることが多く「イベント」だけが行われます。こういった「レース」もあってもよいとは思いますが、会員増にはつながらないような気がします。

- 2016年度の目標

本年も需要がある限り、JSAFとしての「パフォーマンスハンディキャップ」の運用を進めてゆきます。

以上

JSAF 外洋安全委員会 資 料

2016 年 2 月 8 日
JSAF 外洋安全委員会

外洋安全委員会からのお知らせ
＜JSAF 外洋合同委員会 2016/2/6＞
発表資料・訂正分（赤字）含む

【目次】

■無線通信機器

1. VHF 無線通信

1-1. 海上特殊無線技士（無線免許）取得援助

2. 遭難救助通信

2-1. PLB (Personal Locator Beacon)

2-2. AIS-SART (Search and Rescue Transponder)

■JSAF 外洋特別規定

3. JSAF 外洋特別規定 2016-2017

3-1. World Sailing OSR の主な変更

3-2. JSAF 特記の変更

4. JSAF 外洋特別規定の運用

4-1. JSAF 外洋特別規定運用時の注意事項

4-2. JSAF 外洋特別規定解説講習会

■5. 安全航行に向けて

5-1. 安全にセーリングを楽しむために

5-2. 2016 春の安全週間

■6. 各団体へのお願い

6-1. レースでの外洋特別規定採用状況調査

6-2. 加盟団体の外洋安全委員会担当者登録

1. VHF 無線通信

1-1. 海上特殊無線技士（無線免許）取得援助

＊民間業者との割引契約事業（舵社主催講習会=JSAF メンバーは 10%オフ）は継続。

2. 遭難救助通信

2-1. PLB（Personal Locator Beacon）の国内使用

平成 27 年（2015 年）8 月 13 日付けにて、日本国内で PLB（Personal Locator Beacon）の使用が制度化。＜別紙「我が国への PLB 導入について」参照＞

現時点（2016 年 1 月）、国内使用可能な PLB 機器の販売は未確認。

2-2. AIS-SART（Search and Rescue Transponder（Transmitter））

型式検定（みなし検定）の商品が発売されています、また販売予定の商品もあります。

easy RESCUEを国内販売しているウェブサイト↓

<http://www.ais-japan.org/product/32>



イーチャート社も別のAIS-SART（SART100）の販売予定の模様↓

http://www.e-chart.jp/product/ais/ais_index/ais_sart/6.html



■注意事項

現在 AIS-SART (Search and Rescue Transponder 搜索救助送信機) は、「艇」に備え付ける通信機器としての型式検定 (みなし検定) であって、「人」が使用する前提での型式検定 (みなし検定) ではありません。

【搜索救助用機器の分類】

装備対象	搜索救助組織 のみ受信可能	AIS 装備艇 誰でも受信可能
	衛星電波	VHF 電波
艇に装備	EPIRB	AIS-SART (AIS-MOB)
人に装着	PLB	

* AIS-SART 機器は、同じ機器で艇に装備する (ライフラフトやライフポールに設置など)、乗員各人が装着のどちらでも使える機器が多い (前記 easy RESCUE など)。

* AIS-SART 機器の中でも、人が装着することに特化した AIS-MOB などと呼ばれる機器や、艇に装備すること前提とした機器もある (前記 SART100)。

【日本国内での認可状況】

電波法での承認の対象	衛星電波	VHF 電波
艇に承認 登録名:〇〇号	EPIRB	AIS-SART
人に承認 登録名:日本太郎	PLB	日本国内では未承認

EPIRB=Emergency Position-indicating Radio Beacon (非常用位置指示無線標識装置)

* 衛星通信を利用した、搜索救助送信機

PLB=Personal Locator Beacon (携帯用位置指示無線標識)

* 衛星通信を利用した、個人用搜索救助送信機

AIS-SART= Automatic Identification System - Search and Rescue Transponder

* VHF 通信の AIS (船舶自動識別装置) を利用した、搜索救助送信機

AIS-MOB= Automatic Identification System - Man Overboard

* VHF 通信の AIS (船舶自動識別装置) を利用した、個人用搜索救助送信機

■JSAF 外洋特別規定

3. JSAF 外洋特別規定 2016-2017

JSAF 外洋特別規定 2016-2017 Version-0.6【草稿版】を外洋安全委員会のホームページに掲載。この Version-0.6【草稿版】はレースに使用してはならない。レース使用可能な確定版 Version-1.0 は 2 月末までに当該ホームページに掲載。

以下の説明は概要の為、規定本文で確認すること。矛盾した場合は規定本文が正となる。

3-1. World Sailing Offshore Special Regulations 2016-2017 変更点

3-1-1. 全体の主な変更点

1) 注釈 (Guidance notes) と推奨 (recommendations) 項目が削除

本則に参考書要素はなくなる。附則の内容変更と整理、削除、番号の変更がなされた。

＜旧規定より削除された附則＞

附則 A-ヨット用ライフraftの最低限の仕様

附則 D-急停止とライフスリング

附則 M-ハルの建造規準 (スカントリング)

2) 用語や表現が全面的に見直し

＜主な用語の変更＞

ISAF→World Sailing、Yacht→Boat、Life Sling→Recovery Sling、

Man Overboard→Crew Overboard、など

＜年数表現＞

進水年や製造年の基準となる年月表現が変更。

翻訳の「～年より前」「～年より後」の意味に注意 (下記例)

2012 年より前 (before 2012) =2012 年を含まない、2011 年 12 月末までのこと

2011 年より後 (after 2011) =2011 年を含まない、2012 年 1 月 1 日からのこと

3-1-2. 第 1 章、2 章における主な変更点

1) 規定の採用は安全を保障するものではないと明記【1.01.3】

2) 用語・略語の追加、再定義【1.03.1】

主な項目 (=以下の説明は概略文)

コンテインコクピット (Contained Cockpit) =閉ざされたコクピット【3.09】

対義語: オープンコクピット

ジャックスティ (Jackstay) =ハーネステザーを外さずに移動可能な紐

ロード (Rode) =アンカーロープ、アンカーチェーン、それらの組み合わせ【4.06】

3) カテゴリー名の変更【2.01】

【2.01.6】附則 J カテゴリー5→附則 B インショアレース用特別規定

【2.01.7】附則 L カテゴリー6→附則 C ディンギーインショアレース用特別規定

3-1-3. モノハル・カテゴリ3、4における主な変更点

<カテゴリ3、4 共通>

- 1) ライフラインたわみ計測荷重単位変更：40 ニュートン→4kg 【3. 14. 1 i】
- 2) 中間ライフラインのたわみ計測ポイント変更：全ての支持点間→マストより後方の一番広い支持点間 【3. 14. 1 i】
- 3) 航海灯：LED の場合予備電球は不要：【3. 27. 4】
- 4) レーダーリフレクター：対象品が2 種から3 種へ（八面体以外が追加）【4. 10】
- 5) ヒービングライン：直径（6mm 以上）が追加【4. 22. 5】
- 6) リカバリースリング（旧ライフスリング）：仕様（浮力や紐の長さなど）が追加【4. 22. 6】
- 7) 信号焰：搭載種類が減少（c4 信号紅炎、c3 パラシュートフレア不要）【4. 23. 1】
 カテゴリ3：信号紅炎 LSA III 3.2 適合品=4 個、発煙浮信号 LSA III 3.3 適合品=2 個
 カテゴリ4：発煙浮信号 LSA III 3.3 適合品=2 個
- 8) 落水救助訓練：毎年1 回以上の訓練が義務化【6. 04. 1】

<カテゴリ3 のみ>

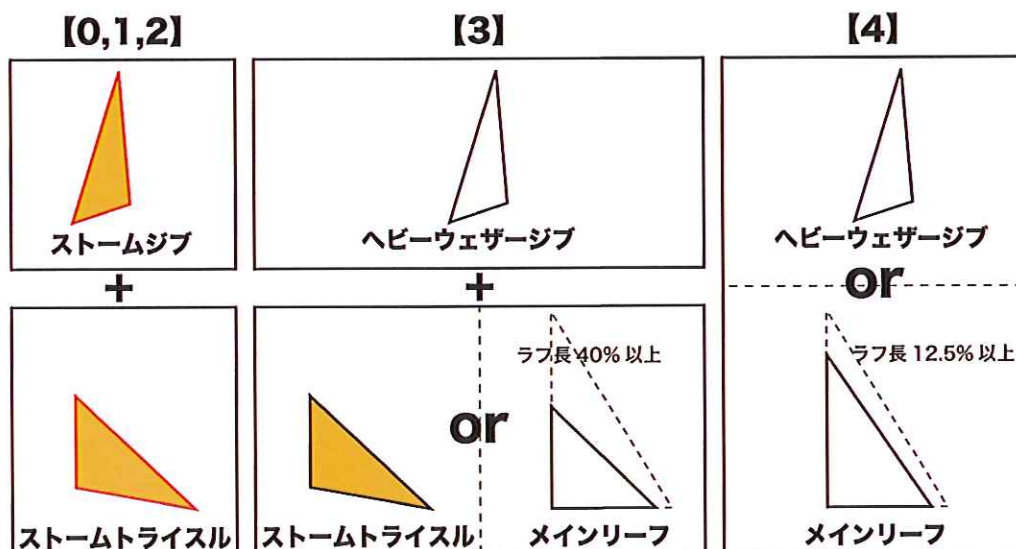
- 1) ライフラインの素材：ステンレスのみに変更（HMPE 使用不可）【3. 14. 6 a】
- 2) ライフジャケット：スプレーフード（推奨）→必【5. 01】
- 3) トレーニング：乗員が2 名の場合 6. 01 と同じようなトレーニングが必要【6. 01. 1】

<カテゴリ4 のみ>

- 1) ヘビーウェザーセイル：メインセイルリーフ（12.5%）またはヘビーウェザージブ【4. 26. 2】
- 3) ライフイフジャケット：ライフジャケットライト、スプレーフード（推奨）→不要【5. 01】

OSR 4.26

ストームセイルとヘビーウェザーセイル



ストームセイル（ストームジブ、ストームトライスル）

●全面が高い視認性（2013 年より後の購入品）

●素材の制限（アロマティックポリアミド、カーボン、などの繊維は使用 NG）

3-2. JSAF 特記国内規定の変更（特記は国内規定に名称変更）

World Sailing offshore Special Regulations 2016-2017 の変更に伴い、ほとんどの JSAF 特記は不要となった。残った JSAF 特記国内規定も以下の通りとする。

1) JSAF 特記国内規定の削除時限法

旧規定（2014-2015）の JSAF 特記から信号焔、ライフジャケット、ハーネステザーの 3 項目の JSAF 特記国内規定は World Sailing OSR の通りとする。

ただし、各項目には旧規定（2014-2015）の JSAF 特記該当品でも可とする以下の猶予期間を設定している。

【4.23.1】信号焔：2018 年 3 月まで

【5.01.1】ライフジャケット：2017 年 3 月まで

【5.02.1】ハーネステザー：2017 年 3 月まで

2) JSAF 外洋特別規定 2016-2017 における、モノハル・カテゴリー3、4 の JSAF 特記国内規定

【有効期限】2016 年 4 月～2017 年 3 月

【4.07】LED タイプのライトには予備電球は搭載しなくて良い。ただし、予備のライトの搭載を推奨する。

【4.23.1】2018 年 3 月までは、規定以外に下記のセットでも可とする。

信号紅炎	小型船舶用 自己発煙信号	小型船舶用 火せん	発煙浮信号
1	1	2	1

【5.01.1】2017 年 3 月までは、規定以外に小型船舶検査機構の検査を満足するものも可とする。ただし、股紐等の使用を強く推奨する。

【5.02.1】2017 年 3 月までは、b)、c)、d) 項を満たさないものも可とする（カテゴリー3のみ）

3) 1 年毎の改訂版の発行

World Sailing Offshore Special Regulations は 2014-2015 年版の際に 2015 年にマイナーチェンジ版（version-2）を発行した。→JSAF 特別規定 2014-2015 は 2015 年マイナーチェンジ対応しなかった。

JSAF 特別規定 2016-2017 版においては、World Sailing Offshore Special Regulations は 2016-2017 のマイナーチェンジ（version-2）に対応した改訂版（誤記や誤字の訂正などの対応では無く）JSAF 特別規定 2016-2017（version-2）発行予定。

4. JSAF 外洋特別規定の運用

4-1. 運用時の注意事項

1) 2月3日にウェブサイトに掲載した JSAF 外洋特別規定 2016-2017 Version-0.6 は草稿版のため、レースに使用してはならない。

- ・草稿版はユーザー理解を深める為に確定版掲載の前に公表した。今後、誤記や表現などの変更の可能性がある。
- ・レース使用可能な確定版 Version-1.0 は2月末を目処にウェブサイトに掲載予定。

2) 適用される規則は、「JSAF 外洋特別規定」と「ISAF 解釈」のみ

- ・レースに JSAF 外洋特別規定を適用した場合、規則違反かどうかの判断は「JSAF 外洋特別規定 2014-2015」と ISAF が公表している「INTERPRETATION No 1/2004 - Emergency Rudders」のみである。

* 過去に一部会員のみに行われた申し合わせ事項などは、広く公開されて折らず現時点では適用されてない。

* 「JSAF 外洋特別規定」は JSAF 特記事項を除いて、英文が正となる。

JSAF 外洋特別規定 2016-2017

<http://www.jsaf-anzen.jp/1-1.html>

INTERPRETATION No 1/2004 - Emergency Rudders

[http://www.sailing.org/tools/documents/Interpretation02_EmergencyRudders-\[3682\].pdf](http://www.sailing.org/tools/documents/Interpretation02_EmergencyRudders-[3682].pdf)

4-2. JSAF 外洋特別規定解説講習会クリニックへの講師派遣

加盟団体（加盟団体・特別加盟団体）主催の解説講習会へ講師を派遣する。

詳細は JSAF 外洋安全委員会ホームページを参照

<http://www.jsaf-anzen.jp/1-4.html>

下記【費用に関して】は全面削除。費用に関しては上記ホームページ掲載の通りのままとする。

~~【費用に関して】~~

~~上記ホームページでは、講師派遣費用は1,000円/参加者1名となっているが、事前費用算出が難しいということから、当面以下の金額で講師派遣する。~~

~~講師派遣費用：20,000円（全国一律）~~

~~・会場費、公表されている資料のプリントは主催団体が負担すること。~~

~~・参加者からの費用徴収の有無、費用金額は主催団体の決定事項。~~

■5. 安全航行に向けて

5-1. 安全にセーリングを楽しむために

2015 年は落水事故の情報を聞くに至らなかったが、2012～2014 年の間に落水事故が相次いで発生。2012-2013 年の事故では重大な結果に至る事故が続出し、2014 年では幸い大事には至らなかったが、いずれも自艇での救助に至っていない。落水者を自艇で救助するのは非常に困難であると言える。

* 落水救助訓練も大切だが、そもそも落水しない訓練や準備が重要である。

2000 年まで外洋特別規定の運用は、日本国内では「安全検査」という名で検査員が検査するものだった。このため、安全は与えられるもので、自分たちで考えるという意識が低い状態が続いている。意識改革が必要である。

* 安全は与えられるものではありません。自分たちで確立するものです。

5-2. 2016 春の安全週間

・ 期間：2016 年 3 月 12 日（土）～21 日（火・祝）

■各団体へのお願い

6-1. レースでの JSAF 外洋特別規定採用状況調査

レースへの採用状況、JSAF 外洋特別規定に関わる抗議・救済、審問結果の実態把握。

別途書類書式に従って、2015 年度（2015 年 4 月～2016 年 3 月）の実態を提出願いたい。

<JSAF 外洋特別規定の採用状況調査 2015>

提出期限：2016 年 4 月 28 日（木）

提出先：外洋安全委員会 anzen-offshore@jsaf.or.jp

* JSAF 外洋特別規定に関わる抗議・救済があった場合は、抗議書と審問結果も添付。

6-2. 加盟団体の外洋安全委員会担当者登録

登録担当者の確認

* 別紙のリストが、現在の各加盟団体の登録担当者。

・ リストに間違いがある、担当者が代わった場合、担当者が未登録の団体は外洋安全委員会へ連絡ください。担当者は必ずしも外洋安全委員会専任である必要はありません、事務局や他委員会担当と兼任でもかまいません。

<お願い>

* 担当者には、外洋安全委員会からの公示や案内が主にメールで送付されます。公示や案内を担当者レベルで留めずに、各団体所属の会員に知らしめてください。

以上



総務省 総合通信基盤局
電波部 衛星移動通信課
課長 内藤 茂雄



総務省 総合通信基盤局
電波部 衛星移動通信課
総務省

課長補佐 松井 明

〒100-8926

東京都千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館10階
TEL: 03-5253-5897 FAX: 03-5253-5903

〒100-8926 東京都千代田区霞が関2丁目1番2号

電話 03-5253-6111 (内線24606)

03-5253-5901 (直通)

FAX 03-5253-5903

E-mail: a.matsui@soumu.go.jp



Ministry of Internal Affairs and Communications

我が国へのPLB導入について

平成27年8月11日

総務省

総合通信基盤局 電波部 衛星移動通信課



MIC

Ministry of Internal Affairs and Communications

プレーヤーボードの利用者等において国内導入のニーズが高まっていた携帯用位置指示無線標識 (PLB: Personal Locator Beacon) について、平成27年8月13日に制度整備が終了し我が国へのPLBの導入が行われることとなりました。

PLBの製品が国内市場に普及するのは本年秋頃となります。

制度化にあたっての特徴

1 無線従事者免許及び管理の簡易化

- (1) 無線従事者不要
- (2) 簡易な免許手続
 - ・新設検査不要、機器の換装は届出のみ
 - ・申請書類の記載項目を簡素化、免許状及び申請書の写し以外の書類不要
- (3) 定期検査不要

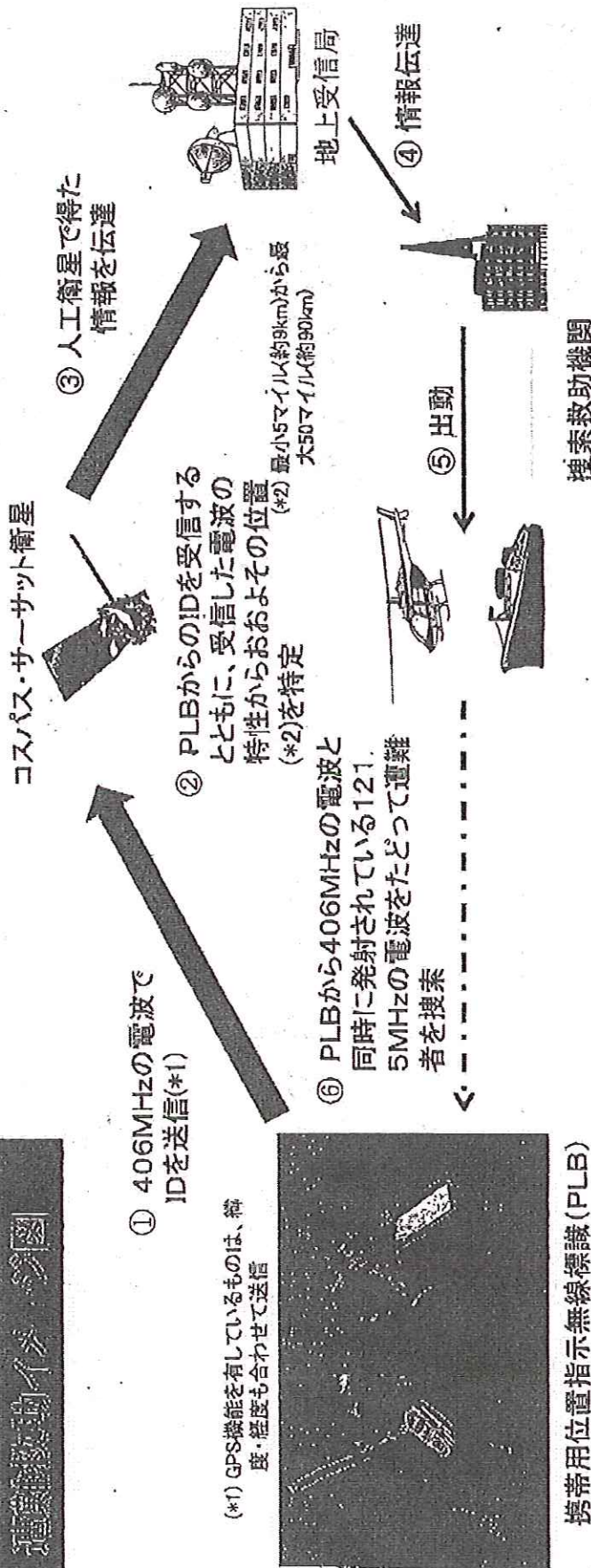
2 遭難時の安全確認

遭難信号が送信された場合、遭難者以外とも連絡が取れるところを2箇所以上記載することを義務

3 使用用途・使用区域

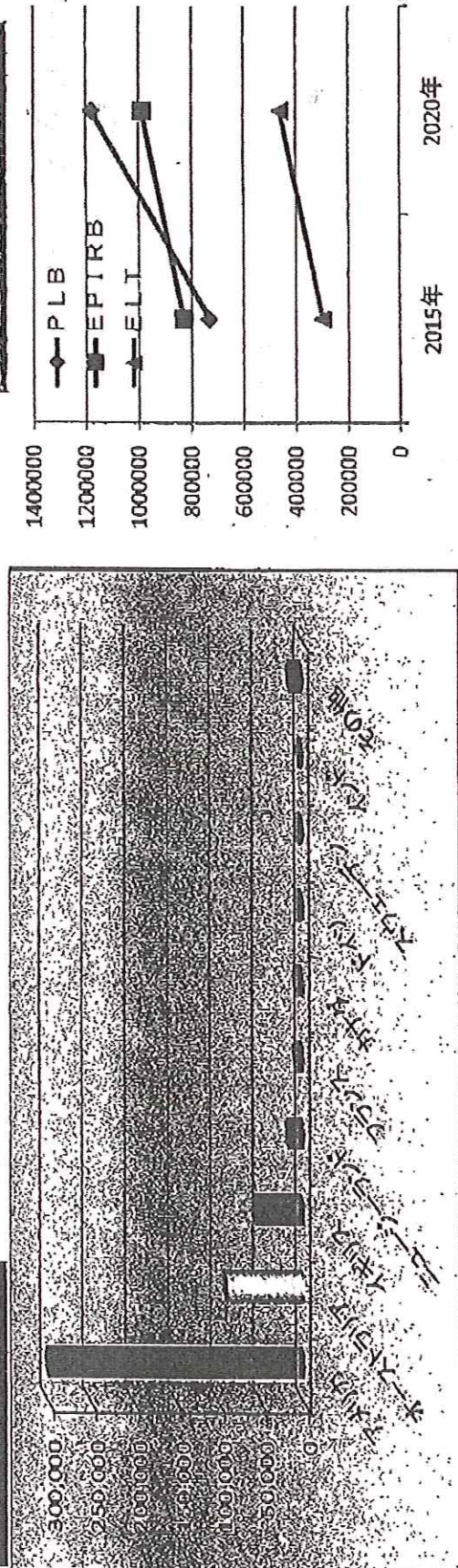
海上の遭難通信を想定

通達機動イメー図



510,768万台(2012年12月現在)

PLBの今後の普及率



JSAF外洋特別規定 レース採用状況調査 2015

団体名	外洋湘南
-----	------

	レース名	開催時期	レース内容	JSAF外洋特別規定 採用状況	JSAF外洋特別規定 に関連する 抗議・救済の有無
1	逗子カップ	2015年9月21-23日	インシヨア上下/コースタル	カテゴリー4	有
2	大將レース	2015年10月10日	コースタル	不採用	無
3	葉山レガッタスプリング	2015年11月3-4日	インシヨア上下	IRCクラスのみカテゴリー5	無
4	クラブレース	年間20レース	インシヨア上下/コースタル	不採用	無
5					有・無
6					有・無
7					有・無
8					有・無
9					有・無
10					有・無

JSAF外洋特別規定に関わる抗議・救済があった場合は、「抗議書」と「審問結果」も添付ください▲

対象期間 2015年4月～2016年3月

提出期限 2016年4月28日(木)

提出先 anzen-offshore@jsaf.or.jp

2016 春の安全週間

3月12日-21日
土 祝

実施していますか？日頃の

点検

訓練

点検

艇の構造や装備、機装、安全備品などの
点検整備を行い常に使える状態にしましょう。

- 安全備品等の搭載忘れはありませんか？
- 膨張式ライフジャケットの定期点検していますか？
- マストやライフラインなど艇の構造物や装備を定期的に点検していますか？
- 点検整備は、年間を通じてまめに実施しましょう。
- 膨張式ライフジャケットは定期点検が必要です。

photo by Junichi Hirai

訓練

備品の搭載位置や使い方を把握しましょう。
荒天帆走、落水救助などの訓練をしましょう。

- 備品は搭載位置の把握、使い方も事前に学習していますか？
- 通常帆走の練習以外に荒天帆走時の訓練していますか？
- 落水時の救助訓練を実施していますか？
- 事故が起きた場合の対応に加え、事故を防ぐための練習などソフト面の訓練を実施しましょう。

photo by Yusuke Taguchi

外洋特別規定
2016-2017
規定番号 6.04.1

落水救助訓練
毎年実施に
義務化！



JAPAN
SAILING
FEDERATION

公益財団法人 日本セーリング連盟

外洋安全委員会ホームページ

<http://www.jsaf-anzen.jp/index.html>

外洋安全委員会フェイスブック

<https://www.facebook.com/jsafgaiyouanzen>



JSAF ルール委員会
外洋小委員会
資 料

2016 年 2 月 6 日

ルール委員会外洋規則小委員会

ルール委員会外洋規則委員会からの報告、お願い

(1) 2015 年の外洋系レースでのルール上の課題について

(2) 裁量ペナルティ

2015 ジャパンカップ等から ISAF ワールド等での方式で試行中。

(3) ジャッジマニュアルに P 節 Judging Oceanic and Offshore Racing 新設された

RRS 変更の注意点など、ジャッジだけでなく外洋レース運営等のメンバーにも役に立つ内容（近日、翻訳を発表予定）

(4) お願い：プロテストのかけ声の周知

新しいルールブック 2017-2020RRS より、プロテストのかけ声は（「抗議」「プロテスト」）から「プロテスト」のみになる。

(5) お願い：ルール改正の選手・運営スタッフ等への周知、ジャッジの講習会準備

・新しいルールブック 2017-2020RRS は 11 月頃発行予定。団体ごとの予約など夏ごろから順次情報提供

・各団体でのルール改正の選手・運営スタッフ等への周知のツールを提供予定。

・B級ジャッジ更新講習の準備をお願い（ARO・CRO 更新講習との同時開催が出来るように調整します）

・ジャッジ更新には、ジャッジ経験が必要です。不足するジャッジには今年のレースでの配慮を。

（６）外洋規則小委員会について

① メンバー

（正）大村、（副） 榛葉、村松、松原、日下部、佐藤(百)、高野、坂元
（顧問委員） 周東

② 活動方針

エンジンの使用を規定した RRS42.3 (h) (i)の普及を進める。

RRS55 及び ISAF Q&A N002、N003 のごみの処分について周知を図る。

ジャッジマニュアル P 節 Judging Oceanic and Offshore Racing の仮訳の作成およびその内容の普及をはかる。

今年から JSAF 主催になったジャパンカップをルール面から支援するとともにジャッジの派遣を行う。

③ 2015年度主な活動計画

① RRS42.3 (h)、(i) の普及・検証

② RRS55 及び ISAF Q&A N002、N003 の周知

③ ジャッジマニュアル P 節 Judging Oceanic and Offshore Racing

・小委員会としての仮訳を作成する。

・ジャッジ、運営関係者等に内容の普及を図る。

④ ジャパンカップ2015の実施（ルール面の支援、ジャッジ派遣）

⑤ 外洋レースの帆走指示書作成支援（随時）

⑥ 外洋レースのレガッタレポートの収集

⑦ 外洋レース特有の課題整理

⑧ 外洋関係委員会等との連絡・連携

・外洋合同委員会（2016年2月、於：大阪市）の開催

・外洋関係会議に参加し連絡を密にする。

⑨ 外洋関係ジャッジの発掘・育成

2015年全日本外洋ヨット選手権大会

裁量のペナルティー 案

帆走指示書13.3及び15.4に規定する規則違反に対するペナルティーの程度(ゼロペナルティーから失格まで)に関するプロテスト委員会の判断は以下のガイドラインによるものとする。

ペナルティーを次の5つのバンドに分ける

- | | |
|---------|--------------------|
| 1、バンド 0 | ゼロペナルティー |
| 2、バンド 1 | 0～10% (中間の得点 5%) |
| 3、バンド 2 | 10～30% (中間の得点 20%) |
| 4、バンド 3 | 30～70% (中間の得点 50%) |
| 5、バンド 4 | DSQ/DNE |

どのバンドを適用するかを決めるために次を用いることから始める。

それから次の質問を使う。

バンド内の適切な最初のペナルティーを決める場合、考慮されるべき質問は以下が含まれる:

- 1(a) 規則違反は、選手又はレース主催者の安全を危うくするものだったか?
- 1(b) 当該艇は、その艇の違反により競技上の優位を得たか?
- 1(c) その規則違反は、スポーツ又は開催団体の評判を落とすものか?
- 1(d) その規則違反により、物的損害又は人的損傷が生じたか?
- 1(e) 誰かに迷惑をかけたか?

バンドを増やす若しくは減らすため、又はバンド内でペナルティーを最大化若しくは最小化すべき理由がある場合、以下の質問が判断するために求められる。

- 2(a) 規則違反は、故意であったか?
そうであればバンドは少なくとも一つ上げる、そして規則2を考慮する。
- 2(b) 規則違反は、相当な理由又は正当とする事実があったか?
もし相当な理由があれば、バンドゼロを考慮する。
- 2(c) 規則違反を隠そうとする何らかの試みがあったか?
そうであれば、バンドは少なくとも一つ上げる、そして規則2を考慮する。
- 2(d) 規則違反は、不注意又は無頓着な規則の無視であったか?
そうであれば、バンドの最上位又はレベルを一つ上げる。
- 2(e) 規則違反は、繰り返されたものか?
もしそうであれば、ペナルティーバンドを一つ上げることを考慮する。
- 2(f) 規則違反は、競技者によって報告されたものか?
もしそうであれば、バンドの最低とする又はバンドを一つ下げる根拠となる。

以下の原則がペナルティーの適用に用いられる。

- * 次表のガイダンスと併せ 1(a) から (e) の質問を用いて、適切な '始まり' のペナルティーバンドと中間の得点%を決める。
- * 2(a) から (f) の質問を用いて、中間の得点%が適切か又はペナルティーを増大すべき若しくは減少されるべきかを定める。バンドをより上げる又は下げる変更は、例外的な状況においてのみなされるべきである。
- * どのようなペナルティーでも、たぶん獲得したであろう利益を上回るようにすべきである。
- * 裁量のペナルティーは、通常、艇の得点をリタイア又は失格より悪くはしない。
- * パーセンテージペナルティーは計算され、小数点第一位を四捨五入して整数のポイントにする。
- * 違反が一日に行われる一レースより多くに影響する場合であっても、一レースのみを罰することが適切である。ペナルティーは、その日の最初のレース又はインシデントに最も近いレースに適用されるべきである。

もし競技者が、裁量のペナルティーとされてるという規則を破っていることに気付いていたら、彼らはジュリーに規則違反をしたことを記載した文書の作成を求められている場合には報告すべきである。ジュリーは、艇が審問なしに受け入れることができるペナルティーを提案する。

次のペナルティーは、質問 1(a) から (e) 及び 2(a) から (f) を考慮する前に、どのようなペナルティーと評価するために始まりの考えのようにガイダンスとして勧められる。

帆走指示書 指示番号	内 容	バンド
指示6 レース旗		
SI 6.1	レース旗を艇後部に掲揚していなかった	0~1
指示17 安全規定		
SI 17.1 (出艇申告)	① 所定の申告用紙に、②必要事項を記入し、③艇長が署名し、④適切な時間内に、⑤レース本部に提出…全て／何れかがなされていなかった	0~2
SI 17.2 (帰着申告)	① 90分以内に、②レース本部に出向き、③帰着申告書に、④記入し、⑤署名する…全て／何れかがなされていなかった	0~4
SI 17.3 (ロギングシステム)	① 帰着申告時に返還しなかった	0~1
	② レース中に電源が入っていなかった	1
	③ レース中に故意に電源を落とした	4
SI 17.4 (リタイア)	① その旨をレース本部にできるだけ早く報告する。	1又は4
	② 当該艇の責任者が行うこと	1
SI 17.5 (帆走禁止区域)	① 帆走禁止区域を航行した	1~4
	② 本船の航行を妨げた	3又は4
SI 17.6 (個人用浮揚用具)	① レース中、個人用浮揚用具を使用できる状態では着用していなかった	1~4
	② ウェストポーチ型の個人用浮揚用具を着用した	0~1
指示18 乗員の交代と装備の交換		
SI 18.1	複数の艇に対して乗員登録を行った(関係する全ての艇)	1
SI 18.2	出艇申告後に乗員の交代を行った(妥当な理由が有る又は無い)	1又は3
SI 18.3	① セイルイベントリーリストの追加登録をせずに当該セイルを使用した	4
	② 使用当日に追加登録をした(リスト提出及びセイルの確認は受けた)セイルを使用した	3
指示19 装備と計測のチェック		
SI 19.2	指定された時間に艇を係留または上架させなかった(妥当な理由が有る又は無い)	1又は3
SI 19.3	インスペクティブに艇の責任者が立ち会わなかった(妥当な理由が有る又は無い)	0又は3
SI 19.2~19.4	検査を理由なく拒否した	4
SI 19.4	インスペクター又はメジャーの指示に従わなかった(指定されたエリアに向かわなかった) (妥当な理由が有る又は無い)	1又は3
SI 19.5	レースに参加する前に体重計測を受けなかった (妥当な理由が有る又は無い)	1又は3

指示21 支援艇		
SI21.1	①支援する艇名を明確にし、②支援艇の艇種、及び③艇名を)④事前に、⑤レース委員会に、⑥書面にて、⑦申告する	0~1
SI21.2	インスペクションを受けているに、①接舷、及び②支援活動を行った	4
SI21.3	レースに影響するエリアにいた	1~4
指示22 上架の制限		
SI 22	レース委員会の事前の許可証による許可なく上架した(妥当な理由が有る又は無い)	1~2
	レース委員会の事前の許可証による許可はあったが、条件に反した上架を行った(妥当な理由が有る又は無い)	0~1
	緊急の上架であったが、レース委員会を納得させることができなかった	4

その他
資 料

2016 年外洋合同会議 (2016 年 2 月 6 日) J S A F 国際委員会
外洋国際小委員会
鈴木一行

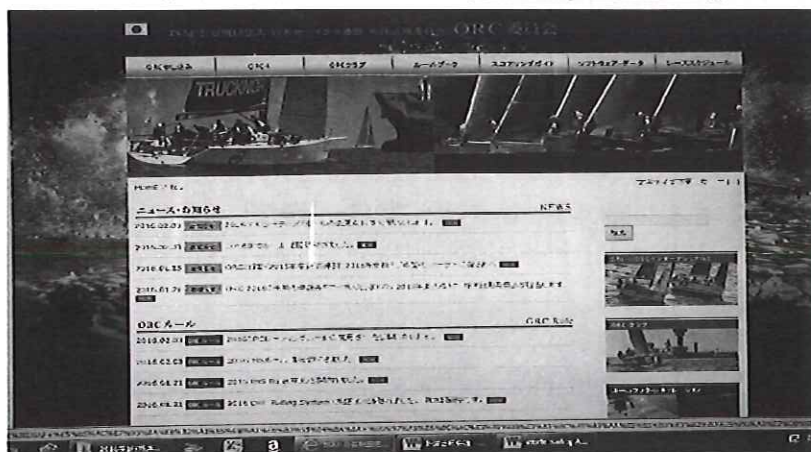
外洋艇 国際関連 NEWS

1. ISAF はブランド名称、組織名称をプロモーション拡大のため。

World Sailing に変わりました。(2016 年 11 月)
J S A F には特に影響はありません。



2. ORCレーティングの証書発行は 2016 年 1 月より J S A F 計測委員会が行います。(ORC委員会が発足します) 計測委員会で
HPを開設しました。 <http://www.jsaforc.org>
事務局連絡先は office@jsaforc.org



3. 海外人事

World Sailing 新任 CEO . Mr. Andy Hunt (GBR)
ORC 執行部 再任 会長 Mr. Bruno Finzi + 執行部
IRC レーティングオフィス Director Mr. Mike Urwin(退任)
Mr. James Dadd(新任)

外洋国際小委員会 2015 年度報告と計画

1. IRC コングレス
2015 年 10 月 10 日 マルセイユ、フランス 出席 角氏、坂本氏
計測に関する変更点の論議
UMS 定義の統一について共通のプラットフォーム作成途上
2. ISAF 総会
2015 年 11 月 三亜、中国
組織名：ワールドセーリングに変更
委員会報告： スペシャルレギュレーション委員会
オセアニックアンドオフショアコミッティー
イクイップメントコミッティー
レーシングルールコミッティー
それぞれの内容については別途報告
3. ORC コングレス 出席 植松副会長、小林氏
会長など執行部の再選
2015 年世界選手権はバルセロナ 22 か国 100 艇
4. ORC 本部執行部と 日本での運用打ち合わせ
2015 年 11 月 9 日
ORC レーティングの証書発行を ORCAN から JSAF へ移管の打ち合わせ
5. ORC レーティング（計測委員会）
2016 年 1 月より ORCAN 発行していた証書について JSAF へ移管
ORCAN の実務担当者との引継ぎおよび移管作業中
<http://www.jsaforc.org> メール： office@jsaforc.org
6. IRC レーティングオフィス Mr. Mike Urwin 来日 講演
2015 年 11 月 13 日 IRC オーナーズ協会中心に約 40 名の参加者
当日講演資料は提供可能
7. IRC2016 年証書発行に関する書類準備（計測委員会、IRC 委員会）
8. 2016 年国際レース支援および他の委員会との連携強化

平成 28 年度 事 業 計 画

国際委員会

鈴木 一行 印

J S A F 本部 国際委員会全体事業予定

1. 国際会議への代表者、委員の派遣
 - ① WS ミッドイヤーミーティング 2016/5/5-8 ミラノ (イタリア)
 - ② WS 年次総会 2016/11/5~13 スウェーデン (予定)
 - ③ ORC 年次総会 2016/11 スウェーデン (予定) 出席予定者 植松眞、小林昇
 - ④ ASAF 臨時総会 2016/3/6 アブダビ (UAE)
2. Sport For Tomorrow Project の実施
江の島オリンピックウィーク前週に数か国を招いてのセーリングクリニックを計画
(外務省と 1 月末から折衝開始)
3. 外洋艇 普及促進のためレーティングの導入および管理 (外洋計測委員会と連携)
IRC レーティングの普及および運営
ORC レーティングの JSAF 計測委員会が証書発行開始 (ORCAN から移管)
4. 2020 年 東京オリンピック・パラリンピック準備委員会との協力。
2020 オリンピック・パラリンピック セーリング競技実施に関して WS との協議
に対する協力。セーリング競技をパラリンピックに復帰させる活動への協力
5. 国際的な情報収集およびその情報の迅速な提供
6. 日本から海外への情報発信
7. ISAF の<コネクト・トゥ・セイリング・プロジェクト>、<ユース・セイリング・プロジェクト>の日本への導入推進。セーリング普及プロジェクトへの協力。
8. オリンピック強化委員会と協力し、オリンピックセーラー育成、ゴールドプラン実現のための国際情報収集・提供。海外 MNA との友好関係の構築・強化、交流の促進。
2016、リオ・オリンピックに関する情報収集。
9. ルール委員会、レース委員会、ワンデザイン計測委員会と協力してルールおよびレース・マネージメントに関する情報収集、並びに IJ, IU, IRO, IM の育成サポート
10. ディンギー、外洋艇の国際レース開催、参加への協力。

註：年度事業計画を文章でかつ箇条書

第5回JYMA選抜 大学対抗&U25ヨットマッチレース2016

開催日: 3月11日(金) ~ 13日(日)

ディンギーからキールボートへ! セーリングの幅を広げ生涯スポーツへ!
大学チーム限定ではないオープンな大会として開催しております。同世代間交流の場を提供!



2016年出場チーム

早稲田大学ヨット部	全日本インカレ総合2連覇	Osailing	2015年 Asia Pacific Student Cup 出場
DUYCオールスターズ	全日本インカレ総合3位	江の島連合	関東学連混成チーム
慶應義塾大学 team 470	全日本インカレ総合4位	中日ゴアテックス	中央大 & 日大の混成チーム
九州大学	2015年学生マッチ準優勝	福岡大学ヨット部	全日本インカレ総合9位
TOKAI Match Racing	2015年学生マッチ4位	関西連合	神戸大 & 大阪大の混成チーム
仰 秀	2015年J/24ドイツワールド出場	神戸大学オフショアセーリング部	Student Yachting World Cup 2015 6位

- 主催者が用意する艇差のないJ/24 ● オンザウォーターアンパイアリング ● 総当たり戦&順位決定戦
- チーム編成ルール・・・乗員は4~5名合計体重350Kg以下(初日受付時に計測を行う)
- 本大会に参加するすべての競技者は2016年3月31日時点で25歳未満。

[2015年大会の成績]

GEKKO 月光ボーイズ
九州大学
早稲田大学
TOKAI Match Racing
江ノ千葉同盟
Osailing
東京大学
関西連合
慶應義塾大学
明治学院大学
金沢大学
和歌山大学

[2014年大会の成績]

同志社大学
早稲田大学
江の島連合
東京大学
金沢大学
和歌山大学
立命館大学
神戸大学
関西大学
立教大学

[2013年大会の成績]

和歌山大学
関西大学
関西学院大学
立命館大学
早稲田大学
同志社大学
九州大学
東京大学
金沢大学
慶應義塾大学
東北大学
TUBE 中部学連選抜

公益社団法人

日本セーリング連盟

JSAFキールボート強化委員会

マリーナ東海

JYMA学生マッチ実行委員会

大会開催に向けて皆さまのご協賛、ご支援、ご協力をお願いします。
協賛募集中です。

ご支援ご協力のヨット関係者の皆様へ

2016年1月吉日

(公財) 日本セーリング連盟 (JSAF)

JSAF キールボート強化委員会

委員長 中澤信夫

日本ヨットマッチレース協会

会長 伊藤徳雄



第5回 大学対抗&U25 ヨットマッチレース ご協賛のお願い

拝啓

時下ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
平素はセーリング競技に格別のご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。
お陰さまで去る2015年3月、第4回 大学対抗ヨットマッチレースを無事開催することができました。本大会はディンギーからキールボートへ、セーリングの巾を広げ生涯スポーツとしてヨットレースを楽しむ契機の提供です。この大会でディンギーしか知らない若い学生達がキールボートのハンドリングを覚え、その楽しさ、奥深さも体験出来た事でしょう。
出場した選手のみならず、全国の若手セーラーにキールボートへの関心を高めることができました。

引き続き皆さまのご支援による継続開催が日本のセーリング界の活性化につながると確信して、本年も下記の通り開催致します。

つきましては厚かましいお願いで誠に恐縮ですが、若い選手のを負担軽減し、質の高い競技会に致したく、この活動に対しご協賛いただきますよう何卒、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1、大会概要

- ・開催日 2016年3月11日(金)～13日(日)
- ・場所 日産マリナ東海(愛知県)
- ・競技内容 主催者側が用意するキールボート J/24 6艇によるマッチレース
- ・出場予定チーム(順不同)

江の島連合 関西連合 慶應義塾大学ヨット部 早稲田大学ヨット部 福岡大学
同志社大学 九州大学 O-SAILING 神戸大学外洋帆走 Tokai Mach Racing
東京大学 中日ごあてつくす 合計12チーム

2、ご協賛内容

- ・内容 (1)大会実施要項に協賛者名、団体名を記載(ご希望名称)
(2)開会式にて協賛者名を読み上げ紹介
(3)大会ホームページ フェースブックにご協賛協力団体等のご紹介

■協賛金 100,000円(1口)

■振込先

- ・【免税寄付の場合は】下記の口座へ振り込み願います。
寄付金は日本セーリング連盟から日本ヨットマッチレース協会へ振替えます。
日本セーリング連盟へ免税申請用の領収書を請求することができます。

三菱東京UFJ銀行 渋谷中央支店 普通0505254

日本セーリング連盟 会長 河野博文(カワノヒロブミ)

- ・【免税寄付申請がご不要の場合は】下記の口座へ振り込み願います。

三菱東京UFJ銀行 南藤沢支店 普通0040823

日本ヨットマッチレース協会

■入金期日 2014年3月1日までにお願い申し上げます。

以上

第5回 JYMA選抜 大学対抗&U25 ヨットマッチレース 参加クルーリスト

日程：2016年3月11～13日 会場：マリナー東海

チーム名	ヘルムスマン名	所属	出身校	クルー(予定)
早稲田大学ヨット部	小泉 颯作	早稲田大学(スポーツ科学部4年)	山口県立光	島本拓哉(スポーツ科学部/4年/千葉県立総研) 大庭裕太郎(文化情報学部/4年/早稲田大学高等学院) 原海志(創造理工学部/4年/早稲田実業) 花園航(創造理工学部/4年/京都府立洛北) 山下剛(スポーツ健康科学部/4年/清風) 中川健太(経済学部/4年/比叡山) 島田知雄(生命医科学部/4年/弘学館) 飯村孝(商学部/1年/舟入)
DUYOオースタース	山田剛士	同志社大学(商学部4年)	中村学園三陽	
慶應義塾大学 team 470	長嶺玄香	慶應義塾大学(環境情報学部4年)	青山学院	
九州大学	田中航輝	九州大学(21世紀プログラム4年)	清風	田中神風(芸術工学部/4年/修徳館) 秋庭広大(電学部/4年/清和) 森後介(工学部/4年/渋谷教育学園幕張) 森本真仁(農学部/4年/清風)
神戸大学 オブジョアセーリング部	東浦啓太	海事科学部 2年	私立開明	阪野功章(海事科学部 2年 国立広島大学付属) 川俣治生(海事科学部 2年 奈良県立郡山) 奥中勇太(海事科学部 2年 大阪府立大手前) 森海舟(海事科学部 1年 兵庫県立須磨夏)
TOKAI Match Racing	山本将大	名古屋大学(3年)	愛知県立半田	中村俊平(名古屋大学/2年/愛知県立半田) 石川颯(名城大学/2年/愛知県立半田) 鈴木空(愛知工業大学/2年/愛知県立須磨) 小畑亮介(和歌山大学/2年)
仰秀	松山宏彰	東京大学(法学部3年)	奈良学園	岡田一哉(東京大学法学部/2年/聖光) 安原遼(東京大学経済学部/1年/小山台) 上村周(東京大学理学部/2年/清和) 菅木夢(東京大学法学部/3年/麻布)
Osailing	小倉隆寛	立命館大学(経済学部3年生)	宮津	榎本健斗(立命館大学OB/県立戸国) 野中哲介(立命館大学/立命館) 村上雅典(大阪府立大/清風) 折原品嗣(神戸大学/清風)
江の島運合	穂井雄基	上智大学(経済学部4年)	茨城県立水戸第一	奈良啓登(立命館大学経済学部/4年/函館市立中部) 松田百葉美(早稲田大学経済学部/4年/神奈川県立窪田) 阿部健児(上智大学理工学部/4年/中央大学付属) 片貝佳祐(芝浦工業大学工学部/4年/群馬県立高崎工業) 山口源登(東京経済大学経済学部/4年/芝浦工業大学付)
中日コアテックス	金谷俊輝	中央大学(理工学部4年)	逆子開成	岡田祐己(中央大学文学部/4年/中央大学付属西) 岡田祐樹(中央大学法学部/4年/逆子開成) 松本遥希(中央大学文学部/4年/鹿洲西) 大野雅貴(日本大学法学部/4年/別府青山)
福岡大学ヨット部	日野勇輝	福岡大学(スポーツ科学部4年)	唐津西	京本岳朗(工学部/4年/門司学園) 与那野一成(スポーツ科学部/4年/鹿洲西) 田中健太郎(経済学部/4年/福岡第一)
関西運合	河内曉	神戸大学(海事科学部4年)	広島国泰寺	谷崎英樹(理学院/4年/九条大付属九州) 上村健人(大阪大学工学部/4年/奈良北) 神原健太(大阪大学法学部/4年/小幡湖陵) 中村龍彦(神戸大学海事科学部/4年/宮津) 長岡淳彦(神戸大学工学部/4年/桃山)